

# ANTENNA

2026年入試への万全の対策

## 第1回全統共通テスト模試

来年度入試の栄冠を勝ちとる第一歩として、全国209,252名の受験生を集めて実施された第1回全統共通テスト模試の結果をお届けします。

大学入学共通テスト試験および私立大の客観式問題攻略の鍵は、日頃の学習においてまんべんなく各項目を体系的に整理して理解することにあります。本模試の結果も、点数に一喜一憂するのではなく、特に誤答した問題や分野別の成績内容に着目し、不得意教科や弱点分野の認識、今後の学習計画の確立、さらには各自の志望校絞り込みの資料として、本冊子を大いに活用してください。

勝負はこれからです。志望校合格に向けてますますの飛躍を期待しています。

《次回実施のご案内》

次回全統模試のご案内については、こちらをご確認ください。

[www.kawai-juku.ac.jp/zento/](http://www.kawai-juku.ac.jp/zento/)



スマートフォンの方はこちら

## も く じ

見直しシート	2
個人成績表の見方	3
成績統計資料	7
総合成績表	7
科目別成績表	8
教科科目別設問別成績表	10
設問別正答率表	13
学習対策	17
英語	17
数学	18
国語	18
理科	19
地理歴史、公民	22
情報	24
「成績推移」過回成績表示 申請について	25
お問い合わせ先一覧	27

\* 本冊子の編集内容の無断転載・複製を禁止します。

## 全統模試 見直しシート

### STEP 1

個人成績表「1. 成績概況」を確認し、受験した教科・科目と得点を書き込みましょう。

### STEP 2

個人成績表「3. 設問別成績」の、あなたと同じ学力レベル層や、第1志望校の一段階上の判定者との成績比較で差が見ついた設問を確認し、弱点となっている分野を書き込みましょう。

### STEP 3

弱点分野を中心に、「学習の手引き」や本冊子の「学習対策」、模試ナビの解説講義動画などを確認し、今回の模試の反省点と、今後の具体的な対策（何を、いつまでにやるのか）を書き込みましょう。

### STEP 4

個人成績表「2. 志望校別成績・評価」を参考に、次回の模試の目標得点を書き込みましょう。

STEP 1		STEP 2	STEP 3		STEP 4
教科・科目	得点/配点	弱点分野	今回の反省点	今後の対策	次回の目標得点
(例) 英語	52/100	文法・語法	基本的な文法の理解ができていない	次回の模試までに文法集の11～30ページをノートにまとめて復習する	65/100
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/
	/				/

# 個人成績表の見方

各項目について、詳しくはP.5~6をご確認ください。

## 1-(1) 成績概況

自分の学力状況や全国での位置づけを確認しましょう



各科目の得点や偏差値、順位、平均点などを表示しています。

1-(1) 受験型	2年	あなたの得点	偏差値	学力レベル	全国		校内				
					平均点	順位	平均点	順位			
英語	90/100	70.4	S	50.6	6943 / 648902	49.6	61.6	5324 / 597282	69.0	56.7	9 / 289
リスニング	96/100	72.5	S	52.9	1624 / 67062	55.0	66.4	1208 / 570038	68.5	65.1	5 / 288
英語+L	186/200	72.8	S	106.8	2757 / 67190	100.0	128.8	2126 / 578390	70.3	121.8	4 / 288
数学I	62/100	58.8	B	46.8	4641 / 67024	45.0	58.1	34092 / 67024	60.8	45.7	10 / 288
数学II	80/100	66.5	B	49.4	13946 / 40426	45.1	63.8	9546 / 43974	70.3	50.1	3 / 123
数学I+II	142/200	63.6	A	96.3	21886 / 487208	94.0	122.1	15807 / 446230	69.8	96.0	3 / 124
数学I+II+L	152/200	64.1	A	100.5	20263 / 602304	105.3	120.5	20262 / 57424	64.5	101.2	15 / 251
英語+数学	33/50	69.4	S	15.7	3133 / 143508	15.4	21.3	2641 / 136536	62.8	20.1	4 / 29
理科	47/100	63.3	B	48.4	2588 / 97594	48.1	58.8	6164 / 451374	66.8	48.0	3 / 104
理科+L	77/100	64.8	A	44.4	4896 / 114746	47.3	62.2	3734 / 181038	65.4	46.0	7 / 53
公民	56/100	53.3	C	52.1	14141 / 16218	51.5	56.9	11837 / 67490	53.0	52.8	8 / 24
情報	71/100	58.8	B	46.3	30395 / 280113	46.2	63.7	3078 / 218977	66.4	50.1	3 / 122
総合	59/100	70.0	S	50.6	2139 / 103200	45.0	64.7	1429 / 141022	69.1	51.6	2 / 24
総合+L	58/100	66.4	S	54.8	337614	---	---	4213 / 318606	65.3	5 / 178	

## 1-(2) 合格可能性評価用成績

合格可能性評価の算出に利用する成績を表示しています。



共通テスト換算得点：今回の模試の得点を、直近の大学入学共通テストの得点に換算したものです。



私大評価用偏差値：数学と国語の偏差値を表示しています。(志望大学の入試科目に応じて利用します)

### 全統共通テスト模試 個人成績表 第1面【秘】

科目	得点	偏差値	学力レベル	全国平均	校内平均	校内順位
英語	90	70.4	S	50.6	69.0	9
リスニング	96	72.5	S	52.9	68.5	5
英語+L	186	72.8	S	106.8	70.3	4
数学I	62	58.8	B	46.8	60.8	10
数学II	80	66.5	B	49.4	70.3	3
数学I+II	142	63.6	A	96.3	69.8	3
数学I+II+L	152	64.1	A	100.5	64.5	15
英語+数学	33	69.4	S	15.7	62.8	4
理科	47	63.3	B	48.4	66.8	3
理科+L	77	64.8	A	44.4	65.4	7
公民	56	53.3	C	52.1	53.0	8
情報	71	58.8	B	46.3	66.4	3
総合	59	70.0	S	50.6	69.1	2
総合+L	58	66.4	S	54.8	65.3	5

### 全統共通テスト模試 個人成績表 第2面【秘】

内容	得点	偏差値	平均点	差	得点率の差	設問別バランス	第1志望校との成績差
1 読解-情報	10 / 10	6.6	7.1	1.8	1.1	11.0%	1 8.6
2 読解-情報	18 / 20	11.0	13.7	2.7	-0.3	11.7%	2 18.2
3 読解-資料	15 / 15	10.4	11.8	1.4	0.7	4.7%	3 14.5
4 読解-記事	11 / 16	5.8	6.1	4.3	-0.1	20.6%	4 10.5
5 読解-記事	15 / 15	6.8	8.5	1.7	0.0	6.7%	5 13.2
6 読解-論説	21 / 24	9.1	9.6	2.0	0.7	2.9%	6 19.2

## 2 志望校別成績・評価

志望校までの距離やライバルの中での位置づけを確認しましょう



大学・学部ごとの合格可能性評価、志望者内の順位、教科別成績などを表示しています。



合格可能性評価の記号の意味は右表のとおりです。受験教科・科目に不足がある場合などには、注意表示がされます。



第1志望~第4志望には「評価別人数」のグラフが表示しています。黒く塗りられた得点(偏差値)帯があなたの位置を表しています。

- A : 合格可能性評価80%以上
- B : 合格可能性評価65%
- C : 合格可能性評価50%
- D : 合格可能性評価35%
- E : 合格可能性評価20%以下
- G : 教科・科目数の不足
- H : 範囲不足

## 3 設問別成績

分野ごとの成績や、どの分野でライバルと差がついたのかを確認しましょう



各科目の設問別の成績や、成績を基にした学習アドバイスを表示しています。



あなたと同じ学力レベル層(S~Fレベル)の平均点とあなたの得点を比較して、最も良かった設問に○、悪かった設問に▲を表示しています。



第1志望について、あなたの評価より一段階上の判定者との成績比較を表示しています。

# 個人成績表の見方

各項目について、詳しくはP.5～6をご確認ください。

## 4. 正答・誤答マーク読み取り状況

具体的にどの問題でつまづいたのか、マークの塗り間違いはなかったか確認しましょう

- 問題ごとのマーク読み取り状況と正誤状況を表示しています。

## 5. 成績推移

学習成果の長期的な推移を確認しましょう

- 昨年度の全統共通テスト高2、今年度の第1～3回全統共通テスト模試、全統プレ共通テストの成績推移を表示しています。

全統共通テスト模試 個人成績表 第3面【秘】

3 設問別成績

内容	得点	全国	平均	偏差値	標準偏差	順位	偏差値	標準偏差	順位
1の中身	15	20	11.6	14.0	0	13.8	1.2	6.91	179
2の中身	23	30	20.2	22.7	2	23.3	-0.3	-1.1%	2
3の中身	17	15	8.7	10.5	9	10.9	6.1	24.6%	9
4の中身	16	12	13.2	16.8	4	17.8	1.8	-7.2%	4

4 正答・誤答マーク読み取り状況

○=正答 ×=誤答 △=部分点 S=正解パターンが複数あり正誤が表示できないもの N=無解答 マークがうすい等 W=余分にマークしている

大問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リスニング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
数学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

大問番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

解答番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

正誤 ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ × ○ ×

マーク 1 2 4 3 3 2 4 5 4 1 3 3

河合塾

全統共通テスト模試 個人成績表 第4面【秘】

5 正答・誤答マーク読み取り状況

○=正答 ×=誤答 △=部分点 S=正解パターンが複数あり正誤が表示できないもの N=無解答 マークがうすい等 W=余分にマークしている

科目	得点	偏差値	レベル	科目	得点	偏差値	レベル	科目	得点	偏差値	レベル
英語	70	66.1	S	英語	81	64.6	A	英語	90	70.4	S
リスニング	60	59.2	B	リスニング	74	65.3	S	リスニング	86	72.5	S
数学I A	60	60.0	A	数学I A	58	58.0	B	数学I A	62	58.2	B
数学II A	61	61.9	A	数学II A	73	59.2	B	数学II A	80	66.5	S
数学I B	61	61.9	A	数学I B	73	59.2	B	数学I B	80	66.5	S
数学II B	141	61.5	A	数学II B	131	59.0	B	数学II B	142	63.6	A

全統共通高2 (1月)

第1回共通テスト (5月)

第2回共通テスト (7月)

河合塾

## 個人成績表の見方＜注釈＞

### 1-(1). 成績概況

■学カレベルの定義は以下の通りです。

S : 偏差値 65.0 以上	D : 偏差値 45.0 ~ 49.9
A : 偏差値 60.0 ~ 64.9	E : 偏差値 40.0 ~ 44.9
B : 偏差値 55.0 ~ 59.9	F : 偏差値 40.0 未満
C : 偏差値 50.0 ~ 54.9	

■得点欄の\*印はその科目の学力に対する注意を表します。その科目の偏差値が、あなたの受験した科目の偏差値の平均値より5ポイント以上下回る場合に付されます。

■総合成績には、英数国総合、「総合1」（受験型別）、「総合2」（文理別）の3種類があります。このうち総合1の「国理6-8型、国文6-8型、国公6-6型」以外は、すべて教科の偏差値の平均を用いて順位づけを行います。これは、各教科の成績（母集団内での位置）を考慮しながら、総合成績を評価するという方針によります。したがって、各教科の成績評価の尺度として偏差値を採用し、それらを総合して評価する際に、それらの平均を取るという方法で順位づけを行います。

■英数国総合は、英数国3教科以上を受験したすべての受験生が母集団です。偏差値は、英語の偏差値、数学①と数学②の偏差値の平均値、国語の偏差値の平均値です。

■総合1は受験型別により、次の各型の母集団内での位置づけを表します。

1型：国理6-8型（英語+L、数学①、数学②、国語、理科2科目、地理歴史、公民1科目、情報）

2型：国文6-8型（英語+L、数学①、数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民2科目、情報）

3型：国公6-6型（英語+L、数学①or数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民1科目、情報）

4型：私立理系型 英語（リーディング）・数①or数②と理(1)または情報から1-2の3-4教科の偏差値の平均値

5型：私立文系型 英語（リーディング）・国語と情報、数①or数②、地理歴史、公民のいずれか3-4教科の偏差値の平均値

・「リスニング」未受験の場合は「英語」の成績を用いて集計します。

・3型は1型、2型を含んだ母集団によるものです。

1型から3型の偏差値は総合得点による偏差値、4型、5型の偏差値は各科目の偏差値の平均です。また、4型、5型は4教科以下の受験者を対象とし、英語はリスニングを含まない成績を利用します。

■総合2は、文理別の位置づけを表します。

文系は英・国・「数or地or公」から2-3教科、理系は英・数・理から2-3教科の偏差値の平均です。

・文系または理系の区別は受験届の「文理別」欄のマークによります。未マークの場合は、最も高い志望順位にマークした国公立大学（マークしていない場合は私立大学）の文理区分によります。

・数学の偏差値は、①②両方を受験している場合は①②の平均を用います。片方のみを受験した場合は、その科目の偏差値を用います。

・理科、地理歴史、公民を複数科目受験している場合は、偏差値の高い科目を採用します。

■理科を2科目受験した場合は、上段に第1解答科目を表示します。

また、数学、理科、地理歴史、公民において、選択科目のマーク漏れなどにより選択科目が特定できない場合、最も正答率が高い科目を採用するとともに、科目欄に「#」を表示します。

■校内成績の母集団は、現役生は在籍高校、高卒生のうち予備校生はその予備校です。また、偏差値は母集団が20名以上の場合のみ表示します。校内順位は、全国偏差値をもとに順位づけしています。

### 1-(2). 合格可能性評価用成績

■来年度入試において大学入学共通テストを課す大学については、共通テスト換算得点による合格可能性評価を行います。詳しくは、個人成績表の第4面の説明を参照してください。

■共通テスト換算得点は、今年度の全統共通テスト模試の科目の得点を、直近の大学入学共通テストの得点に換算したものです。今年度の全統共通テスト模試の中での位置づけが、直近の大学入学共通テストの得点分布ではどのような位置に相当するかを示すもので、来年度の大学入学共通テストの得点を予想するものではありません。\*理科、地理歴史、公民において第2解答科目の共通テスト換算得点が第1解答科目より高い場合は「\*」を表示します。

■私大評価用偏差値は、私立大の合格可能性評価に使う数学と国語の偏差値です。数学と国語は、より正確な学力評価を行うため志望大学の出題科目・範囲に合わせて合格可能性評価を行います。

・数学は、数学①（IA、I）のみ受験した方は数学①、数学②（IIBC）のみ受験した方は数学②の偏差値が数学（1科目）の欄に表示されます。数学①②両方を受験した方は数学（1科目）の欄には数学①、数学（2科目）の欄には数学①②の偏差値が表示されます。

（数学IAまで課す大学は、数学①までの成績で判定します）。

・国語は、3種類（現代文のみ（110点）、現代文・古文（155点）、現代文・古文・漢文（200点））の偏差値が表示されます。

・数学・国語以外の教科については「1-(1)成績概況」に表示された、各科目の偏差値を使用します。

## 2. 志望校別成績・評価

■河合塾の合格可能性評価は、模試ごとの志望者分布だけでなく今年度の全体志望動向を含めて予想しています。

詳しくはこちらの該当模試のページからご確認ください。

[www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/](http://www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/)

■「定員」は、4年制大学および短期大学は募集人員、専門学校などは入学定員を表示しています。

・非公表の場合は河合塾推定で「\*」を付しています。

・大学が若干名と公表している場合、もしくは、設定できない場合、募集人員を「0」と表示しています。

■志望した学部・学科の中で、第1志望者内での集計と総志望者での集計を行い、「順位」「平均偏差値」または「平均換算得点」を表示します。

・第1志望は、国公立大については前期、中期、後期の各日程内で最も志望順位の高い出願予定校の志望者を、私立大については私立大の中で最も志望順位の高い大学の志望者を集計対象としています。

・第2志望以下の大学・学部・学科における「第1志望者」欄の順位は、第1志望者の母集団に当てはめた場合の順位です。

■合格可能性評価

・志望大学に必要な教科・科目を1科目も受験していない場合は、合格可能性評価欄に「G」のみを付し、A~Eの評価は表示されません。

・志望大学に必要な教科・科目を一部受験していない場合は、国公立大、共通テスト利用私大・短大は不足科目を0点として扱い、一般の私立大・短大などは、受験している科目で評価偏差値を計算して評価を行い、合格可能性評価欄にG付きの評価（例：BG、CGなど）を表示しています。



・合格可能性評価は、それぞれ次の意味を表します。

- A：合格可能性評価80%以上…今のところ合格圏にあります。このペースで頑張りましょう。
- B：合格可能性評価65%…油断大敵。合格圏へもうひとふんばりです。
- C：合格可能性評価50%…ボーダーライン。合格圏めざして頑張りましょう。
- D：合格可能性評価35%…これからの努力で、まだまだ伸びます。大いに頑張りましょう。
- E：合格可能性評価20%以下……再検討を要します。学習法を一考しましょう。
- G：教科・科目数の不足…志望大学入試に必要な教科・科目を受験していません。理科の「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」2つを課している大学を志望しているが、理科の「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」を1つしか受験していない場合、「G」が付されるが、得点・偏差値は、評価に反映されます。
- H：範囲不足…以下のいずれかの場合表示されます。  
一般入試私大において英語（リスニング）、または数学の範囲が不足している場合。  
なお、選択科目がある場合、国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合は、換算得点の高い方、私立大・短大・専門学校などの場合は偏差値が高い方の科目を通常は用いますが、一方の科目が範囲不足となっている場合は、成績に関わりなく範囲不足になっていないもう一方の科目を用いて合格可能性評価を行います。
- \*：英・数・国・理・地公・情報の教科試験が課されない等の理由により、合格可能性評価を行いません。

#### ■評価別人数

- 第1～第4志望には「評価別人数」グラフを表示しています。黒く塗られた得点（偏差値）帯があなたの位置を表しています。人数はそれぞれの得点帯または偏差値帯の人数です。各合格可能性評価の下限値となる得点帯または偏差値帯の左に評価を表示しています。
- ・第1～第4志望のグラフの母集団は国公立大は出願予定者、私立大（共通テスト利用私大・短大含む）は総志望者です。国公立大の場合は、出願予定以外の志望において、あなたの成績と同じ成績の方が第1志望の母集団にいない場合（人数が0人の場合）は、当該箇所に「\*」を表示しています。
- ・第5～第9志望の評価基準は下記 URL から確認できます。  
[www.kawai-juku.ac.jp/moshi/h](http://www.kawai-juku.ac.jp/moshi/h)

・BF（ボーダーフリー）とは、ボーダーラインが設定できなかった大学の募集区分（不合格者が少ないため、合格率50%となるボーダーラインがどの偏差値帯においても存在しないもの）を表しています。BFランクの大学・学部・学科のグラフは表示されません。

#### ●国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合

- ・A～Dの表記はそれぞれの評価の得点帯の下限値を示します。
- ・ボーダーラインはBとCの表示の間になります。
- ・得点帯の幅（例えば10点ごとなど）は1つのグラフの中でも、一律とはならない場合があります。

#### ●私立大・短大・専門学校などの場合

- ・A～Dの表記はそれぞれの評価の偏差値帯の下限値を示します。
- ・ボーダーランクはCの表示の偏差値帯です。

#### ■「教科別成績」

- 各志望校の教科別の「平均偏差値」「本人成績」「大学配点（各志望校の教科別配点）」が表示されます。
- ・出願予定大学以外の国公立大については、あなたの成績は集計対象の母集団に入っていません。
  - ・私立大・共通テスト利用私大の場合は、第2～第9志望の場合でもあなたの成績は母集団に含まれています。
  - ・平均偏差値は、当該大学を志望した受験者【国公立大は出願予定者（前期・中期・後期日程各1校まで）、その他は総志望者（第1～第9志望）】が、受験した科目（理科や地理歴史、公民で複数科目を受験している受験生については、それら全科目）の平均です。入試に課されない教科についても参考として表示しています。
  - ・本人成績は、国公立大、共通テスト利用私大・短大の場合は共通テスト換算得点（1-2合格可能性評価用成績参照）を入試の配点に換算した点数です。理科、地理歴史、公民で2科目以上受験し入試で課されている科目が1科目の場合は、第1解答科目を指定している場合は第1解答科目、第1解答科目を指定していない場合は共通テスト換算得点が高い方の得点が表示されます。
- 私立大・短大・専門学校などの場合は成績概況の欄の科目偏差値を表示しています（母集団はその科目を受験した方です）。理科、地理歴史、公民で2科目以上受験している場合は、入試で課されている科目が1科目であれば偏差値の高い方、2科目であればそれぞれの配点のウェイトをかけて計算した偏差値が表示されます。志望校の入試で教科間選択がある場合や、配点パターンが複数あり一律に決まらない場合、合格可能性評価に使用した教科の成績が表示されています。

・下記の記号は、それぞれ次の意味を表します。

- R：第1解答科目に指定されている科目を第2解答科目で受験
- G：必須教科・科目数の不足
- H：範囲不足

・大学配点は、入試に課される教科の教科別の配点のうち、あなたの合格可能性評価に採用された教科について表示しています。ただし、あなたが受験していない教科については表示されません。

### 3. 設問別成績

■第1志望校の一段階上の判定者との成績比較とは、例えばあなたがC判定であれば、B判定者の平均点との比較になります（A判定の場合はA判定者の平均点との比較になります）。母集団は国公立大は出願予定者、私立大は総志望者です。一段階上の判定者が一人もいない場合は表示されません。

### 4. 正答・誤答マーク読み取り状況

■正誤状況の表示については以下の通りです。

- …正答  
×…誤答  
△…部分点  
S…正解パターンが複数あり正誤が表示できないもの  
N…無回答・マークがうすい等  
W…余分にマークしている

### 5. 成績推移

■昨年度の全統共通テスト高2模試、今年度の第1～3回全統共通テスト模試、全統プレ共通テストの成績推移を表示しています。第1回全統共通テスト模試以降については、理科、地理歴史、公民は上段が第1解答科目になります。

# ◆ 総合成績表 受験者総数 209,252名

(現役：185,556名/高卒：23,696名)

「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」は2つを1科目(100点満点)として扱っています。

- (注) 1. 国理6-8型は、英語+L、数学①、数学②、国語、理科2科目、地理歴史、公民1科目、情報の集計です。  
 2. 国文6-8型は、英語+L、数学①、数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民2科目、情報の集計です。  
 3. 国公6-6型は、英語+L、数学① or 数学②、国語、理科1科目、地理歴史、公民1科目、情報の集計で、国理6-8型、国文6-8型を含んだ母集団によるものです。  
 また数学、理科、地理歴史、公民2科目受験の成績については、得点の高い方を使用します。  
 4. 私立理系型、私立文系型で、理科および地理歴史、公民2科目受験の成績については、偏差値の高い方を使用します。  
 5. 理系は英・数・理(1科目)、文系は英・国・数または地理歴史、公民(1科目)から2～3教科の平均偏差値です。  
 6. 英数国総合は、全受験者の中で英数国を受験した全ての受験生を対象とし、英数国3教科の偏差値の平均値により順位付けを行います。

	配点	平均点			標準偏差	平均偏差値			最高点	最低点	人数		
		全体	現役	高卒		全体	現役	高卒			全体	現役	高卒
国理6-8型	1000	518.2	500.7	614.4	133.0	50.0	48.7	57.2	990	55	73532	62191	11341
国文6-8型	1000	501.9	489.5	624.0	131.2	50.0	49.1	59.3	944	28	44784	40665	4119
国公6-6型	800	419.3	407.4	500.3	105.9	50.0	48.9	57.6	795	28	123750	107913	15837
私立理系型	-----	-----	-----	-----	-----	46.2	45.6	51.8	-----	-----	18890	16889	2001
私立文系型	-----	-----	-----	-----	-----	46.9	46.4	52.0	-----	-----	62155	56618	5537
英数国総合	-----	-----	-----	-----	-----	50.9	50.0	57.5	-----	-----	143715	126502	17213
理系	-----	-----	-----	-----	-----	51.9	50.8	58.5	-----	-----	95550	81976	13574
文系	-----	-----	-----	-----	-----	49.6	49.0	55.8	-----	-----	112227	102214	10013

全国の受験者の中での位置を教科・科目別/志望別に確認できる「教科科目別成績順位表」「私大評価用順位表」「型別順位表」「コース別順位表」や、選択した志望校以外の大学・学部・学科の大学入学共通テスト・一般私大入試の合格可能性が確認できる「合格可能性評価基準一覧」を、河合塾 Web サイトに掲載しています。

スマートフォンの方は  
こちら



[www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/](http://www.kawai-juku.ac.jp/zento/statistics/)

## ◆科目別成績表

〈全受験者〉

	配点	平均点			標準偏差	平均偏差値			最高点	最低点	人数		
		全体	現役	高卒		全体	現役	高卒			全体	現役	高卒
英語	100	47.2	45.5	60.3	20.7	50.0	49.2	56.3	100	0	207765	184228	23537
リスニング	100	53.1	51.9	62.7	17.2	50.0	49.3	55.6	100	0	204917	182258	22659
英語+L	200	100.4	97.5	123.5	35.5	50.0	49.2	56.5	200	0	204610	181984	22626
数学I	100	28.1	27.8	35.3	14.5	50.0	49.8	54.9	83	0	1321	1272	49
数学IA	100	48.8	47.0	61.4	17.9	50.0	49.0	57.0	100	0	154798	136030	18768
数学IIBC	100	52.4	50.3	66.8	20.6	50.0	49.0	57.0	100	0	143905	125483	18422
数学①②	200	102.6	98.7	128.6	36.4	50.0	48.9	57.2	200	0	143629	125211	18418
国語	200	98.8	96.8	115.1	30.9	50.0	49.3	55.3	200	0	195903	173852	22051
物理基礎	50	20.5	19.4	26.1	10.1	50.0	48.9	55.5	50	0	7416	6273	1143
物理	100	46.2	44.3	56.6	19.7	50.0	49.0	55.3	100	0	63076	53331	9745
化学基礎	50	24.1	23.5	31.9	10.5	50.0	49.4	57.4	50	0	40606	37630	2976
化学	100	42.9	40.5	56.0	17.1	50.0	48.6	57.6	100	0	81860	69250	12610
生物基礎	50	28.0	27.5	34.1	8.8	50.0	49.5	56.9	50	0	49177	45904	3273
生物	100	49.5	47.0	65.0	19.1	50.0	48.7	58.1	100	0	24589	21167	3422
地学基礎	50	27.0	26.5	30.7	8.7	50.0	49.4	54.3	50	0	16653	14669	1984
地学	100	42.5	39.4	51.0	19.8	50.0	48.4	54.3	97	3	448	330	118
世界史	100	43.2	41.7	56.8	17.1	50.0	49.1	58.0	100	0	39024	35043	3981
日本史	100	45.8	44.5	58.8	15.2	50.0	49.1	58.5	100	0	62134	56516	5618
地理	100	41.8	40.3	50.3	13.3	50.0	48.8	56.4	100	0	55690	47405	8285
倫理	100	53.5	51.4	66.4	15.8	50.0	48.7	58.2	100	0	13830	11917	1913
政治経済	100	49.9	48.9	60.7	14.8	50.0	49.3	57.3	100	0	62380	56806	5574
歴史公共	100	36.3	36.2	41.5	14.1	50.0	49.9	53.7	88	0	4616	4524	92
情報I	100	44.7	43.6	52.3	14.9	50.0	49.3	55.1	100	0	132238	115972	16266

〈理系〉

	配点	平均点			標準偏差	平均偏差値			最高点	最低点	人数		
		全体	現役	高卒		全体	現役	高卒			全体	現役	高卒
英語	100	50.3	48.2	63.3	-----	51.5	50.5	57.8	100	0	95692	82130	13562
リスニング	100	55.3	53.8	65.0	-----	51.3	50.4	56.9	100	0	93968	81047	12921
英語+L	200	105.8	102.2	128.8	-----	51.5	50.5	58.0	200	0	93851	80948	12903
数学I	100	31.7	31.6	34.7	-----	52.5	52.4	54.5	83	0	442	429	13
数学IA	100	52.3	50.5	62.9	-----	51.9	51.0	57.9	100	0	94605	81064	13541
数学IIBC	100	56.6	54.4	69.1	-----	52.0	51.0	58.1	100	0	92015	78539	13476
数学①②	200	109.5	105.6	132.1	-----	51.9	50.8	58.1	200	0	91845	78370	13475
国語	200	102.4	99.9	117.4	-----	51.2	50.4	56.0	200	0	83944	71898	12046
物理基礎	50	16.3	16.3	17.9	-----	45.9	45.8	47.4	48	0	2400	2325	75
物理	100	46.3	44.4	56.6	-----	50.0	49.1	55.3	100	0	62806	53083	9723
化学基礎	50	20.8	20.7	24.3	-----	46.9	46.7	50.2	50	0	5191	5006	185
化学	100	43.0	40.6	56.0	-----	50.0	48.6	57.7	100	0	81459	68876	12583
生物基礎	50	25.1	25.0	26.6	-----	46.7	46.6	48.5	50	0	3989	3843	146
生物	100	50.0	47.4	65.2	-----	50.2	48.9	58.2	100	0	23862	20477	3385
地学基礎	50	23.0	22.5	28.2	-----	45.4	44.9	51.3	50	3	344	314	30
地学	100	46.2	43.0	53.2	-----	51.9	50.2	55.4	97	4	339	232	107
世界史	100	49.1	46.3	57.4	-----	53.5	51.8	58.3	100	6	2004	1497	507
日本史	100	50.5	48.0	58.7	-----	53.1	51.4	58.5	94	0	4148	3188	960
地理	100	41.7	40.3	49.8	-----	49.9	48.9	56.1	100	0	45437	38933	6504
倫理	100	54.8	51.5	66.1	-----	50.8	48.7	58.0	100	3	4993	3877	1116
政治経済	100	52.0	50.6	60.6	-----	51.4	50.5	57.2	100	0	19261	16728	2533
歴史公共	100	38.6	38.6	41.6	-----	51.7	51.6	53.7	86	0	1945	1895	50
情報I	100	47.3	46.2	53.2	-----	51.7	51.0	55.7	100	0	77704	66052	11652

〈文 系〉

	配 点	平 均 点			標 準 偏差	平均偏差値			最 高 点	最 低 点	人 数		
		全 体	現 役	高 卒		全 体	現 役	高 卒			全 体	現 役	高 卒
英 語	100	44.4	43.3	56.2	-----	48.7	48.1	54.4	100	0	112073	102098	9975
リスニング	100	51.2	50.4	59.7	-----	48.9	48.4	53.8	100	0	110949	101211	9738
英語+L	200	95.8	93.8	116.4	-----	48.7	48.1	54.5	200	2	110759	101036	9723
数学I	100	26.3	25.9	35.5	-----	48.7	48.5	55.1	75	0	879	843	36
数学I A	100	43.3	41.9	57.6	-----	46.9	46.2	54.9	100	0	60193	54966	5227
数学II B C	100	45.1	43.4	60.7	-----	46.4	45.6	54.0	100	0	51890	46944	4946
数学①②	200	90.3	87.3	119.2	-----	46.6	45.8	54.6	200	0	51784	46841	4943
国 語	200	96.1	94.5	112.2	-----	49.1	48.6	54.3	200	0	111959	101954	10005
物理基礎	50	22.4	21.3	26.6	-----	51.9	50.8	56.1	50	0	5016	3948	1068
物理	100	31.0	30.0	42.2	-----	42.3	41.8	48.0	80	0	270	248	22
化学基礎	50	24.6	23.9	32.4	-----	50.4	49.8	57.9	50	0	35415	32624	2791
化学	100	29.3	28.8	35.3	-----	42.0	41.8	45.5	73	2	401	374	27
生物基礎	50	28.2	27.7	34.5	-----	50.2	49.7	57.3	50	0	45188	42061	3127
生物	100	35.8	35.0	51.0	-----	42.8	42.4	50.8	96	0	727	690	37
地学基礎	50	27.1	26.6	30.7	-----	50.1	49.5	54.3	50	0	16309	14355	1954
地学	100	30.9	31.0	29.5	-----	44.1	44.2	43.4	80	3	109	98	11
世界史	100	42.9	41.5	56.8	-----	49.8	49.0	57.9	100	0	37020	33546	3474
日本史	100	45.4	44.3	58.8	-----	49.8	49.0	58.5	100	0	57986	53328	4658
地 理	100	42.2	40.2	52.1	-----	50.3	48.8	57.8	100	0	10253	8472	1781
倫 理	100	52.8	51.4	66.8	-----	49.6	48.7	58.4	100	0	8837	8040	797
政治経済	100	49.0	48.1	60.8	-----	49.4	48.8	57.4	97	0	43119	40078	3041
地歴公共	100	34.6	34.5	41.4	-----	48.8	48.7	53.6	88	0	2671	2629	42
情報I	100	41.0	40.2	49.9	-----	47.5	47.0	53.5	99	0	54534	49920	4614

## ◆教科科目別設問別成績表

## 〈英語（リーディング）〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点			標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数			
			全 体	現 役	高 卒				卒-現	全 体	現 役	高 卒
		100	47.2	45.5	60.3	+14.8	20.7	100	0	207765	184228	23537
1	読解問題－案内	6	4.2	4.1	4.9	+0.8	1.8	6	0	207765	184228	23537
2	読解問題－学校新聞	12	6.6	6.4	8.0	+1.6	3.4	12	0	207765	184228	23537
3	読解問題－記事	9	5.0	4.9	6.2	+1.3	2.9	9	0	207765	184228	23537
4	読解表現融合問題－レポート推敲	12	5.8	5.6	7.3	+1.7	3.4	12	0	207765	184228	23537
5	読解問題－メール	16	9.4	9.1	11.7	+2.6	5.0	16	0	207765	184228	23537
6	読解問題－物語文	12	4.5	4.3	6.0	+1.7	3.6	12	0	207765	184228	23537
7	読解問題－説明文	16	6.2	5.9	8.2	+2.3	4.6	16	0	207765	184228	23537
8	読解表現融合問題－レポート作成	17	5.4	5.1	8.1	+3.0	4.4	17	0	207765	184228	23537

## 〈英語（リスニング）〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点			標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数			
			全 体	現 役	高 卒				卒-現	全 体	現 役	高 卒
		100	53.1	51.9	62.7	+10.8	17.2	100	0	204917	182258	22659
1	短文発話内容一致問題	28	16.9	16.5	19.8	+3.3	6.5	28	0	204917	182258	22659
2	対話文イラスト選択問題	12	10.3	10.3	10.7	+0.4	2.6	12	0	204917	182258	22659
3	対話文質問選択問題	18	9.0	8.8	10.8	+2.0	4.4	18	0	204917	182258	22659
4	モノローグ型中文内容把握問題	12	5.6	5.4	7.2	+1.8	3.5	12	0	204917	182258	22659
5	講義・討論型長文内容把握問題	16	5.4	5.2	6.9	+1.7	4.1	16	0	204917	182258	22659
6	会話長文質問選択問題	14	5.9	5.7	7.3	+1.6	3.7	14	0	204917	182258	22659

## 〈数 学 I〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点			標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数			
			全 体	現 役	高 卒				卒-現	全 体	現 役	高 卒
		100	28.1	27.8	35.3	+7.5	14.5	83	0	1321	1272	49
①①	絶対値を含む不等式	10	4.7	4.6	5.1	+0.5	2.5	10	0	1321	1272	49
②	命題の真偽、集合の要素	10	4.1	4.0	4.7	+0.7	2.6	10	0	1321	1272	49
全体		20	8.7	8.7	9.7	+1.0		19	0	1321	1272	49
②	余弦定理、正弦定理、面積	30	5.8	5.6	9.1	+3.5	6.2	30	0	1321	1272	49
③①	X軸との共有点、2次方程式	15	3.8	3.8	5.3	+1.5	3.5	15	0	1321	1272	49
②	円盤の通過範囲の面積	15	2.3	2.3	2.7	+0.4	2.7	13	0	1321	1272	49
全体		30	6.1	6.1	8.0	+1.9		25	0	1321	1272	49
④	ヒストグラム、散布図、相関係数	20	7.5	7.4	8.4	+1.0	4.4	20	0	1321	1272	49

## 〈数学 I A〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点			標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数			
			全 体	現 役	高 卒				卒-現	全 体	現 役	高 卒
		100	48.8	47.0	61.4	+14.4	17.9	100	0	154798	136030	18768
①①	絶対値を含む不等式	10	6.2	6.1	6.8	+0.7	2.2	10	0	154798	136030	18768
②	余弦定理、正弦定理	20	9.4	8.9	13.0	+4.1	5.9	20	0	154798	136030	18768
全体		30	15.6	15.0	19.9	+4.9		30	0	154798	136030	18768
②①	円盤の通過範囲の面積	15	5.8	5.6	7.4	+1.8	3.3	15	0	154798	136030	18768
②	ヒストグラム、散布図、相関係数	15	8.7	8.5	10.2	+1.7	3.7	15	0	154798	136030	18768
全体		30	14.5	14.1	17.6	+3.5		30	0	154798	136030	18768
③	角の二等分線、メネラウスの定理	20	11.5	11.2	14.2	+3.0	5.4	20	0	154798	136030	18768
④	じゃんけんの確率、期待値	20	7.1	6.8	9.7	+2.9	4.9	20	0	154798	136030	18768

## 〈数学 II B C〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点			標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数			
			全 体	現 役	高 卒				卒-現	全 体	現 役	高 卒
		100	52.4	50.3	66.8	+16.5	20.6	100	0	143905	125483	18422
①	指数関数のグラフ、最小値	15	8.5	8.1	10.7	+2.6	3.7	15	0	143905	125483	18422
②	2倍角の公式、合成、方程式	15	9.5	9.1	11.6	+2.5	3.9	15	0	143905	125483	18422
③	3次関数の最大値、接線、面積	22	12.6	12.1	15.8	+3.7	6.2	22	0	143905	125483	18422
④	等比数列、階差数列、群数列	16	8.2	7.9	10.3	+2.4	3.9	16	0	126254	108967	17287
⑤	平均、分散、仮説検定	16	7.1	7.0	8.1	+1.1	4.0	16	0	104131	95170	8961
⑥	内分点、内積、三角形の面積	16	7.7	7.2	10.9	+3.7	4.6	16	0	131747	114335	17412
⑦	ド・モアブルの定理、楕円	16	7.2	6.8	9.2	+2.4	4.1	16	0	49350	39813	9537

## 〈国 語〉

設問 ト-別	設 問 内 容	配点	平 均 点			標 準 偏 差	最高点	最低点	人 数			
			全 体	現 役	高 卒				卒-現	全 体	現 役	高 卒
		200	98.8	96.8	115.1	+18.3	30.9	200	0	195903	173852	22051
1	現代文「論理的文章」の読解	45	31.9	31.5	35.2	+3.7	9.5	45	0	195903	173852	22051
2	現代文「文学的文章」の読解	45	24.4	23.9	28.5	+4.6	9.7	45	0	195903	173852	22051
3	現代文「図表と資料」の読解	20	9.1	8.9	10.4	+1.5	5.5	20	0	195903	173852	22051
4	古文「擬古物語」の読解	45	18.5	18.1	21.8	+3.7	10.0	45	0	195903	173852	22051
5	漢文「漢詩」「評論文」の読解	45	14.9	14.4	19.1	+4.7	10.1	45	0	195903	173852	22051

## 〈物理基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		50	20.5	19.4	26.1	+6.7	10.1	50	0	7416	6273	1143
1	各分野の基本事項	16	6.9	6.6	8.9	+2.3	4.6	16	0	7416	6273	1143
2	落体の運動・電流と抵抗	18	7.8	7.4	9.6	+2.2	4.3	18	0	7416	6273	1143
3	音波の性質、気柱の共鳴	16	5.8	5.4	7.6	+2.2	4.1	16	0	7416	6273	1143

## 〈物理〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		100	46.2	44.3	56.6	+12.3	19.7	100	0	63076	53331	9745
1	各分野の基本事項	25	10.1	9.7	12.7	+3.0	6.2	25	0	63076	53331	9745
2	力と運動	25	15.3	14.6	18.8	+4.2	7.2	25	0	63076	53331	9745
3	波の干渉	25	10.5	10.3	11.8	+1.5	5.9	25	0	63076	53331	9745
4	気体の状態変化	25	10.3	9.7	13.3	+3.6	7.0	25	0	63076	53331	9745

## 〈化学基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		50	24.1	23.5	31.9	+8.4	10.5	50	0	40606	37630	2976
1	物質の構成、物質の変化	34	17.4	17.0	22.9	+5.9	7.8	34	0	40606	37630	2976
2	ハロゲンに関する総合問題	16	6.7	6.5	8.9	+2.4	4.3	16	0	40606	37630	2976

## 〈化学〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		100	42.9	40.5	56.0	+15.5	17.1	100	0	81860	69250	12610
1	物質の構成、結晶格子	20	9.4	8.7	13.0	+4.3	5.4	20	0	81860	69250	12610
2	物質質量、酸・塩基、酸化還元	20	7.4	6.8	10.7	+3.9	4.9	20	0	81860	69250	12610
3	気体、溶解度、希薄溶液の性質	20	8.4	7.9	11.0	+3.1	4.6	20	0	81860	69250	12610
4	反応とエネルギー、電池と電気分解	20	8.7	8.4	10.5	+2.1	4.4	20	0	81860	69250	12610
5	塩化ナトリウムに関する総合問題	20	9.0	8.6	10.9	+2.3	5.0	20	0	81860	69250	12610

## 〈生物基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		50	28.0	27.5	34.1	+6.6	8.8	50	0	49177	45904	3273
1	生物の共通性・DNAの複製	19	11.8	11.6	13.5	+1.9	4.1	19	0	49177	45904	3273
2	自律神経系・ホルモンの分泌調節	15	6.2	6.1	8.5	+2.4	4.0	15	0	49177	45904	3273
3	植生の成り立ち・生態系のバランス	16	10.0	9.8	12.1	+2.3	4.1	16	0	49177	45904	3273

## 〈生物〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		100	49.5	47.0	65.0	+18.0	19.1	100	0	24589	21167	3422
1	減数分裂・独立遺伝・霊長類の進化	22	12.1	11.8	14.2	+2.4	4.7	22	0	24589	21167	3422
2	進化の仕組み	18	9.1	8.7	12.2	+3.5	5.1	18	0	24589	21167	3422
3	ミトコンドリア病の解析・酵素	20	9.5	8.9	13.4	+4.5	5.7	20	0	24589	21167	3422
4	光合成の経路・ルビスコ	19	8.0	7.6	10.8	+3.2	5.0	19	0	24589	21167	3422
5	遺伝情報の発現	21	10.7	10.1	14.5	+4.4	5.7	21	0	24589	21167	3422

## 〈地学基礎〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		50	27.0	26.5	30.7	+4.2	8.7	50	0	16653	14669	1984
1	地球の内部、火成岩、地球の歴史	23	10.5	10.3	12.4	+2.1	5.0	23	0	16653	14669	1984
2	日本の天気、大気中の水	14	7.7	7.6	8.5	+0.9	3.9	14	0	16653	14669	1984
3	太陽の進化、太陽の大きさ	7	3.6	3.5	4.4	+0.9	2.4	7	0	16653	14669	1984
4	環境問題、地球温暖化	6	5.2	5.1	5.4	+0.3	1.7	6	0	16653	14669	1984

## 〈地学〉

設問	設問内容	配点	平均点			標準偏差	最高点	最低点	人数			
			全体	現役	高卒				卒一現	全体	現役	高卒
トータル		100	42.5	39.4	51.0	+11.6	19.8	97	3	448	330	118
1	プレート・重力・地磁気	22	10.6	9.7	13.2	+3.5	6.3	22	0	448	330	118
2	地表の変化と堆積岩・地質と災害	14	7.4	6.9	8.9	+2.0	4.0	14	0	448	330	118
3	地質断面図・地質時代	18	8.2	7.9	9.2	+1.3	5.3	18	0	448	330	118
4	地球の大気圏・大気の大循環・海洋	23	7.4	6.8	9.0	+2.2	5.4	23	0	448	330	118
5	太陽系・銀河系	23	8.8	8.2	10.7	+2.5	5.8	23	0	448	330	118

## 〈世界史〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	43.2	41.7	56.8	+15.1	17.1	100	0	39024	35043	3981
1	近現代の海外渡航者	25	12.3	11.9	15.9	+4.0	5.7	25	0	39024	35043	3981
2	遺跡から分かること	18	9.5	9.3	12.0	+2.7	4.6	18	0	39024	35043	3981
3	塩をめぐる歴史	16	6.9	6.6	8.9	+2.3	4.3	16	0	39024	35043	3981
4	改革とその影響	19	6.9	6.5	9.8	+3.3	4.6	19	0	39024	35043	3981
5	特定の主題に関する考察	22	7.7	7.4	10.3	+2.9	5.0	22	0	39024	35043	3981

## 〈日本史〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	45.8	44.5	58.8	+14.3	15.2	100	0	62134	56516	5618
1	社会主義思想の誕生とその後の展開	25	10.6	10.4	12.8	+2.4	4.5	25	0	62134	56516	5618
2	古代・中世の宗教施設	18	7.4	7.2	9.6	+2.4	3.9	18	0	62134	56516	5618
3	原始・古代の生業に関わる遺跡	19	10.6	10.3	13.6	+3.3	4.6	19	0	62134	56516	5618
4	武士の活動からみた平安・鎌倉時代	19	8.5	8.2	11.3	+3.1	4.7	19	0	62134	56516	5618
5	中世の流通・交通	19	8.7	8.4	11.4	+3.0	4.6	19	0	62134	56516	5618

## 〈地理〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	41.8	40.3	50.3	+10.0	13.3	100	0	55690	47405	8285
1	地図・地理情報	12	4.1	4.0	4.7	+0.7	2.7	12	0	55690	47405	8285
2	自然環境と自然災害	13	5.3	5.0	6.7	+1.7	3.2	13	0	55690	47405	8285
3	エネルギー・鉱産資源	17	6.9	6.6	8.5	+1.9	4.1	17	0	55690	47405	8285
4	人口・人口問題	20	10.3	9.9	12.2	+2.3	4.6	20	0	55690	47405	8285
5	東・東南アジア地誌	17	8.5	8.3	10.0	+1.7	3.8	17	0	55690	47405	8285
6	環大西洋地誌	21	6.7	6.5	8.2	+1.7	4.1	21	0	55690	47405	8285

## 〈倫理〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	53.5	51.4	66.4	+15.0	15.8	100	0	13830	11917	1913
1	青年と職業	12	8.9	8.7	9.9	+1.2	3.1	12	0	13830	11917	1913
2	国民福祉の課題	13	11.2	11.2	11.7	+0.5	2.9	13	0	13830	11917	1913
3	東西の源流思想	18	7.2	6.7	10.5	+3.8	4.1	18	0	13830	11917	1913
4	西洋近現代思想	18	9.2	8.8	11.8	+3.0	4.0	18	0	13830	11917	1913
5	日本の思想	18	9.0	8.6	11.5	+2.9	4.4	18	0	13830	11917	1913
6	現代社会の諸課題	21	7.9	7.4	11.0	+3.6	5.1	21	0	13830	11917	1913

## 〈政治・経済〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	49.9	48.9	60.7	+11.8	14.8	100	0	62380	56806	5574
1	青年と職業	12	8.3	8.1	9.7	+1.6	3.3	12	0	62380	56806	5574
2	国民福祉の課題	13	10.9	10.9	11.8	+0.9	3.2	13	0	62380	56806	5574
3	近代民主政治の基本原則	18	5.1	4.9	6.8	+1.9	3.4	18	0	62380	56806	5574
4	日本国憲法の人権保障	19	8.8	8.5	11.7	+3.2	4.5	19	0	62380	56806	5574
5	現代の市場経済	19	8.9	8.6	11.3	+2.7	4.6	19	0	62380	56806	5574
6	日本経済の発展と課題	19	8.0	7.8	9.6	+1.8	4.2	19	0	62380	56806	5574

## 〈地理総合／歴史総合／公共〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	36.3	36.2	41.5	+5.3	14.1	88	0	4616	4524	92
1	地－地図・地理情報	12	2.9	2.9	2.8	-0.1	2.4	12	0	3430	3361	69
2	地－自然環境と自然災害	13	3.7	3.7	4.3	+0.6	2.9	13	0	3430	3361	69
3	地－生活・文化の多様性	13	4.6	4.6	5.5	+0.9	3.1	13	0	3430	3361	69
4	地－千葉県印西市の地域調査	12	5.5	5.5	6.7	+1.2	3.4	12	0	3430	3361	69
全体		50	16.6	16.5	19.3	+2.8		42	0	3430	3361	69
1	歴－社会主義思想の誕生と展開	25	9.7	9.7	11.6	+1.9	4.4	25	0	1794	1744	50
2	歴－近現代の海外渡航者	25	8.8	8.7	11.0	+2.3	5.1	25	0	1794	1744	50
全体		50	18.5	18.4	22.7	+4.3		44	0	1794	1744	50
1	公－青年と職業	12	6.5	6.5	8.0	+1.5	3.4	12	0	3625	3572	53
2	公－市民の政治参加	12	3.7	3.7	4.7	+1.0	2.9	12	0	3625	3572	53
3	公－国際経済の仕組みと動向	13	4.6	4.6	5.6	+1.0	3.5	13	0	3625	3572	53
4	公－国民福祉の課題	13	6.5	6.5	7.2	+0.7	4.3	13	0	3625	3572	53
全体		50	21.3	21.3	25.5	+4.2		50	0	3625	3572	53

## 〈情報 I〉

設問	設問内容	配点	平均点				標準偏差	最高点	最低点	人数		
			全体	現役	高卒	卒一現				全体	現役	高卒
トータル		100	44.7	43.6	52.3	+8.7	14.9	100	0	132238	115972	16266
1	産業財産権、情報セキュリティ等	20	9.4	9.2	10.3	+1.1	3.4	20	0	132238	115972	16266
2	音のデジタル化、シミュレーション	30	12.7	12.4	15.0	+2.6	5.7	30	0	132238	115972	16266
3	アルゴリズムとプログラミング	25	9.0	8.7	11.1	+2.4	5.5	25	0	132238	115972	16266
4	データの収集、可視化、分析	25	13.6	13.3	15.9	+2.6	5.9	25	0	132238	115972	16266

# ◆設問別正答率表

## 〈英語(リーディング)〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	65.6
	2	55.4
	3	88.4
トータル		69.8
2	4	59.2
	5	72.9
	6	50.3
	7	37.6
トータル		55.0
3	8-11	24.0
	12	75.2
	13	69.1
トータル		56.1
4	14	58.2
	15	49.7
	16	56.4
	17	29.7
トータル		48.5
5	18	69.9
	19	61.7
	20	48.5
	21	55.5
	22	61.0
	23	52.8
トータル		58.2
6	24-27	7.9
	28-29	30.0
	30	60.2
	31	52.8
トータル		37.7
7	32	23.3
	33	38.8
	34-35	27.4
	36	45.1
トータル		37.7
8	37	61.5
	38	20.5
	39	41.8
	40-41	34.3
	42	37.3
トータル		32.3

## 〈英語(リスニング)〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	79.5
	2	52.1
	3	52.8
	4	26.0
	5	92.3
	6	78.2
	7	47.0
	8	63.9
トータル		61.5
2	9	80.7
	10	93.8
	11	83.9
トータル		86.1
3	12	34.6
	13	68.0
	14	67.1
	15	43.3
	16	45.9
トータル		50.0
4	18-21	30.9
	22	73.7
	23	49.8
	24	37.2
	25	27.4
	26	62.3
トータル		46.9
5	27	39.1
	28-29	25.9
	30-31	33.0
	32	31.6
	33	36.1
トータル		33.1
6	34	29.0
	35	25.5
	36	53.2
	37	53.2
トータル		40.2

## 〈数学 I〉

問題番号	解答番号	正答率
①	ア-ウ	68.8
	エ-オ	63.0
	カ	36.6
	キ	43.5
	ク	20.8
	トータル	46.5
②	ケ	63.9
	コ-サ	32.2
	シ	40.9
	ス	45.6
	セ	38.3
	ソ	26.0
トータル		41.1
総トータル		43.6
②	ア-イ	25.6
	ウ-オ	24.5
	カ-ク	16.6
	ケ-サ	6.2
	シ	10.2
	ス-ソ	3.5
トータル		19.0
③	ア-イ	47.2
	ウ-オ	36.3
	カ	61.8
	キ-ク	24.3
	ケ	42.4
	コ-セ	4.8
トータル		33.4
③	タ	36.9
	チ-ツ	23.0
	テ-ト	25.4
	ナ-ネ	2.6
	ノ-ヒ	2.1
	フ	13.3
トータル		15.8
総トータル		22.6
④	ア	79.8
	イ-エ	58.4
	オ-キ	31.3
	ク	24.2
	ケ	34.7
	コ	49.5
	サ	46.9
	シ	11.2
	ス	21.4
	セ	16.0
トータル		37.3

## 〈数学 I A〉

問題番号	解答番号	正答率
①	ア-ウ	91.3
	エ-オ	86.7
	カ	49.9
	キ	62.2
	ク	20.6
	トータル	62.1
①	ケ-コ	69.4
	サ-ス	67.9
	セ-タ	57.3
	チ-テ	33.9
	ト	29.0
	ナ	63.3
トータル		48.1
総トータル		53.9
①	ア	79.2
	イ-ウ	61.3
	エ-オ	73.0
	カ-ケ	20.5
	コ-シ	22.2
	ス	16.5
トータル		40.5
②	ソ	92.2
	タ-ツ	84.4
	テ-ナ	62.1
	ニ	53.7
	ヌ	72.0
	ネ	71.3
トータル		61.6
総トータル		52.4
③	ア	93.5
	イ	94.0
	ウ-エ	60.4
	オ-カ	55.6
	キ-ク	35.9
	ケ	54.0
トータル		58.9
④	ア-イ	78.1
	ウ	81.3
	エ-オ	19.3
	カ-キ	54.9
	ク-ケ	40.0
	コ-サ	26.5
トータル		38.9

## 〈数学 II BC〉

問題番号	解答番号	正答率
①	ア	97.5
	イ-ウ	89.6
	エ	61.3
	オ	48.6
	カ	90.7
	キ	70.2
	ク-ケ	73.8
	コ-サ	72.0
	シ-セ	40.3
	ソ-タ	22.2
トータル		61.9
②	ア	95.4
	イ-ウ	90.1
	エ-オ	64.6
	カ	85.3
	キ-ク	75.0
	コ	60.4
トータル		66.7
③	ア	85.9
	イ-ウ	83.9
	エ-オ	78.2
	カ	87.0
	キ	76.0
	ク-サ	73.7
	シ-ソ	44.1
	タ-チ	57.1
	ツ	80.1
	テ-ト	76.9
トータル		63.8
④	ア-イ	89.9
	ウ	77.6
	エ	73.1
	オ-カ	39.4
	キ-ケ	13.4
	コ-シ	81.3
	ス	78.9
	セ	82.6
	タ	68.5
	チ	40.0
トータル		57.9
⑤	ア-イ	93.3
	ウ-エ	68.7
	オ-カ	44.6
	キ-ク	54.3

問題番号	解答番号	正答率
⑤	ケ-コ	25.4
	サ	33.6
	シ	39.9
	ス-セ	27.2
	ソ-タ	31.0
トータル		37.5
⑥	ア-イ	81.4
	ウ-カ	67.3
	キ	84.8
	ク	60.8
	コ-シ	31.7
	ア	95.4
	ス-セ	49.8
	ソ-ツ	23.6
	チ	41.9
	テ-ト	22.8
トータル		19.2
⑦	ア-ウ	84.1
	エ	84.4
	オ	78.6
	カ	73.9
	キ-ク	56.5
	ケ-シ	23.0
トータル		49.0
⑧	セ	36.3
	ソ	24.9
	タ-チ	18.8
	ツ	10.9
	トータル	49.1

## 〈国語〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	72.8
	2	78.0
	3	67.0
	4	70.9
	5	64.6
	6	59.7
	7	71.7
	8	75.0
	9	68.0
	10	88.5
	トータル	71.6
2	11	78.7
	12	37.8
	13	89.3
	14	48.5
	15	28.8
	16	61.0
	17	51.3
	18	42.7
	19	73.4
		トータル
3	20	20.8
	21	59.4
	22	37.8
	23	63.6
		トータル
4	24	18.8
	25	66.4
	26	50.8
	27	27.6
	28	48.9
	29	42.9
	30	52.2
31	26.1	
	トータル	41.7
5	32	55.6
	33	8.2
	34	28.1
	35	20.6
	36	33.2
	37	21.4
	38	34.2
39	49.4	
	トータル	31.3

## 〈物理基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	39.4
	2	26.9
	3	55.5
	4	51.2
	トータル	43.3
2	5	56.1
	6	59.2
	7	64.2
	8	35.9
	9	44.6
	10	39.2
	11	35.2
	12	24.2
	13	29.1
		トータル
3	14	45.5
	15	38.5
	16	17.9
	17	57.7
	18	33.2
		トータル

## 〈物理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	25.7
	2	71.1
	3	59.3
	4	15.7
	5	45.3
	6	42.9
	トータル	43.3
2	7	94.7
	8	61.9
	9	58.1
	10	67.3
	11	38.7
	12	57.9
	トータル	63.1
3	13	84.3
	14	32.8
	15	31.9
	16	28.0
	17	33.3
	トータル	42.1
4	18	53.6
	19	57.7
	20	14.1
	21	44.2
	22	36.0
	トータル	41.1

## 〈化学基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	62.9
	2	47.6
	3	48.9
	4	35.2
	5	80.3
	6	54.2
	7	32.9
	8	48.8
	9	57.7
	10	49.4
	トータル	51.8
2	11	56.8
	12-14	46.6
	15	43.1
	16	20.3
		トータル

## 〈化学〉

問題番号	解答番号	正答率	
1	1	79.9	
	2	57.2	
	3	40.4	
	4	39.5	
	5	37.2	
	6	34.4	
	トータル	48.1	
2	7	26.6	
	8	28.8	
	9	52.8	
	10	59.0	
	11	39.8	
	12	45.0	
	13	18.2	
	トータル	38.6	
3	14	75.0	
	15	61.7	
	16	44.5	
	17	31.2	
	18	32.2	
	19	40.4	
	20	19.8	
		トータル	43.6
	4	21	72.6
		22	56.3
23		32.9	
24		48.8	
25		24.6	
26	28.5		
	トータル	43.9	
5	27	71.8	
	28	29.0	
	29	43.5	
	30	45.4	
	31	34.6	
	トータル	44.9	

## 〈生物基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	65.1
	2	68.3
	3	71.5
	4	50.7
	5	71.4
	6	48.5
	トータル	62.6
2	7	34.7
	8	48.7
	9	40.0
	10	39.8
	11	45.0
	トータル	41.7
3	12	32.8
	13	53.0
	14	68.0
	15	76.2
16	76.5	
	トータル	61.3

〈生 物〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	94.3
	2	36.8
	3	58.0
	4	75.9
	5	15.5
	6	65.6
トータル		57.7
2	7	57.8
	8	47.5
	9	80.4
	10	28.6
	11	28.5
トータル		48.6
3	12	41.6
	13	53.2
	14	40.9
	15	48.9
	16	52.6
トータル		47.4
4	17	50.7
	18	63.9
	19	26.8
	20	45.1
	21	25.8
トータル		42.5
5	22	35.8
	23	66.7
	24	62.4
	25	39.7
	26	39.0
トータル		48.7

〈地学基礎〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	55.4
	2	43.0
	3	34.0
	4	50.4
	5	40.1
	6	70.7
	7	32.0
トータル		46.5
2	8	60.7
	9	51.8
	10	60.7
	11	45.5
トータル		54.7
3	12	35.9
	13	64.2
	トータル	
4	14	84.5
	15	87.6
トータル		86.1

〈地 学〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	42.6
	2	50.7
	3	55.8
	4	48.4
	5	31.9
	6	60.7
トータル		48.4
2	7	62.3
	8	31.7
	9	71.4
	10	45.1
トータル		52.6
3	11	36.8
	12	40.8
	13	46.7
	14	62.3
	15	38.2
トータル		45.0
4	16	17.2
	17	29.5
	18	43.8
	19	36.6
	20	36.6
	21	30.8
トータル		32.4
5	22	27.0
	23	51.1
	24	28.3
	25	32.6
	26	54.7
	27	34.2
トータル		38.0

〈世界史〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	37.5
	2	44.2
	3	22.8
	4	56.7
	5	59.1
	6	57.8
	7	55.5
	8	62.4
トータル		49.5
2	9	59.4
	10	51.9
	11	67.8
	12	50.8
	13	34.2
	14	53.8
トータル		53.0
3	15	44.3
	16	39.6
	17	50.3
	18	37.6
	19	40.0
トータル		42.3
4	20	54.3
	21	31.3
	22	37.7
	23	16.2
	24	44.9
トータル		35.7
5	25	29.8
	26	28.5
	27	40.7
	28	23.1
	29	39.9
	30	25.3
	31	47.3
	32	38.3
トータル		34.7

〈日本史〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	72.3
	2	39.6
	3	34.5
	4	52.2
	5	56.5
	6	53.7
	7	24.3
	8	16.2
	9	30.3
トータル		42.2
2	10	57.0
	11	53.7
	12	48.0
	13	5.9
	14	47.2
	15	34.7
トータル		41.1
3	16	85.3
	17	50.1
	18	27.6
	19	72.9
	20	42.6
	21	61.8
トータル		56.7
4	22	33.7
	23	55.8
	24	56.9
	25	39.2
	26	44.8
	27	34.7
トータル		44.2
5	28	46.7
	29	50.6
	30	33.5
	31	72.9
	32	45.8
	33	29.2
	トータル	

〈地 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	39.4
	2	25.6
	3	7.4
	4	63.4
トータル		34.0
2	5	43.1
	6	70.9
	7	29.0
	8	22.8
トータル		41.4
3	9	53.3
	10	21.8
	11	42.4
	12	33.8
トータル		41.8
4	14	40.2
	15	57.2
	16	42.2
	17	37.2
	18	77.3
	19	51.3
トータル		50.9
5	20	73.0
	21	57.2
	22	29.3
	23	73.4
トータル		50.6
6	25	49.2
	26	17.4
	27	17.2
	28	36.4
	29	29.0
	30	54.3
トータル		33.9

## 〈倫 理〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	86.7
	2	78.5
	3	60.2
	4	71.4
	トータル	74.2
2	5	76.7
	6	93.9
	7	89.8
	8	88.6
	トータル	87.2
3	9	48.6
	10	24.5
	11	24.3
	12	33.0
	13	73.2
14	36.5	
	トータル	40.0
4	15	73.6
	16	15.3
	17	73.6
	18	39.5
	19	34.5
	20	71.2
	トータル	51.3
5	21	48.3
	22	49.7
	23	39.5
	24	34.4
	25	46.3
	26	82.4
	トータル	50.1
6	27	27.3
	28	29.0
	29	47.5
	30	63.9
	31	18.2
	32	44.1
	トータル	38.3

## 〈政治・経済〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	80.7
	2	74.4
	3	54.6
	4	66.6
	トータル	69.1
2	5	74.0
	6	92.3
	7	87.2
	8	86.5
	トータル	85.0
3	9	13.1
	10	33.6
	11	27.0
	12	56.4
	13	9.1
14	30.1	
	トータル	28.2
4	15	67.4
	16	30.6
	17	57.2
	18	71.1
	19	32.9
	20	23.9
	トータル	47.2
5	21	56.2
	22	27.2
	23	38.0
	24	65.9
	25	46.2
	26	39.6
	トータル	45.5
6	27	51.9
	28	24.5
	29	39.3
	30	35.8
	31	78.4
	32	22.2
	トータル	42.0

## 〈地理総合／歴史総合／公共〉

問題番号	解答番号	正答率
1	1	26.7
	2	14.1
	3	4.6
	4	49.9
	トータル	23.8
2	5	20.1
	6	53.4
	7	21.0
	8	20.8
	トータル	28.8
3	9	31.8
	10	55.8
	11	9.2
	12	53.1
	トータル	37.5
4	13	51.4
	14	48.3
	15	49.3
	16	33.6
	トータル	45.6
	総トータル	33.9
1	1	71.7
	2	35.5
	3	27.9
	4	46.4
	5	54.0
	6	47.4
	7	24.9
	8	13.5
	9	29.4
	トータル	39.0
2	10	24.0
	11	33.2
	12	24.4
	13	46.7
	14	32.2
	15	40.6
	16	42.6
	17	41.7
	トータル	35.7
	総トータル	37.4
1	1	73.5
	2	58.6
	3	37.6
	4	47.0
	トータル	54.2
2	5	21.9
	6	42.5
	7	45.0
	8	14.6
	トータル	31.0
3	9	27.5
	10	52.2
	11	34.7
	12	28.8

問題番号	解答番号	正答率
3	トータル	35.8
4	13	38.5
	14	66.5
	15	49.6
	16	50.6
	トータル	51.3
	総トータル	43.1

## 〈情報 I〉

問題番号	解答番号	正答率	
1	ア	66.2	
	イ	25.8	
	ウ	43.5	
	エ	94.1	
	オ	68.5	
	カ	60.5	
	キ	28.2	
	ク	26.8	
	ケ	35.8	
	コ	30.3	
	サ	40.9	
		トータル	47.3
2	ア	63.8	
	イ	32.9	
	ウ	15.9	
	エ	38.0	
	オ	44.1	
	カ	32.2	
	キ	32.7	
	ク	52.8	
	ケ	80.0	
	コ	47.9	
	サ	57.6	
	シー	セ	28.7
ソ	38.1		
タ	29.4		
	トータル	42.4	
3	ア	73.8	
	イ	44.3	
	エ	41.4	
	カ	24.3	
	キ	40.7	
	ク	20.1	
	コ	10.5	
	シー	セ	17.6
	ソー	タ	76.8
	チ	ツ	4.4
	テ	27.2	
	ト	ナ	45.3
	トータル	35.5	
4	ア	81.5	
	イ	59.7	
	ウ	44.3	
	エ	79.9	
	オ	80.8	
	カ	39.8	
	ク	36.5	
	ケ	38.8	
	トータル	57.7	

## 学習対策

ここでは、教科・科目ごとにポイントとなる問題を取り上げ、その問題の概要と正解を導くために必要な力についてコメントをしています。今後の学習のアドバイス等も記してありますので、自分が受験した教科・科目を確認して復習に役立てましょう。

なお、大問ごとの講評、学習のアドバイスは  **模試ナビ** 河合塾 全統模試 学習ナビゲーター に掲載していますので、確認をしてください。

## 英語

### 【リーディング】

#### 論題に対する賛否の立場とその根拠を読み取る

#### 第8問

##### 読解表現融合問題(レポート作成)

今年度新たに出题された形式の問題である。有機農法に関するレポートを書く場面を想定し、Step 1では、5名の人物の意見を読んで、それぞれの意見とその根拠を理解して整理することができるかが問われている。Step 2では、「大規模な有機農業は現実的ではない」という立場を取ってレポートを書く際、自分の立場と同じ意見の筆者を選択し、その論点を選択することが、また Step 3では、グラフを含む追加の資料の概要や情報を読み取って、書こうとするレポートのアウトラインを組み立てることができるかが問われている。

本文の分量も多いうえに、特に多くの現役生にとっては初めて取り組む形式の問題であったこともあり、出来はよくないであろうと予想される。Step 1では、問1の㉔ The amount of organic farming should be reduced due to low yields. 「収穫量が少ないので有機農業は減らすべきだ」を誤って選択してしまう人が一定数いるであろう。Bobの意見の前半に述べられている「有機農業は労力がかかり、収穫量が少ない」という情報を根拠にするとこの選択肢を選んでしまう可能性があるが、Bobはそのあとで「最善の方法は現状を継続することだ」という主張をしている。したがって、ボブの意見をまとめたものとして、㉔は不適切である。Step 2では、自分の立場を支持す

る筆者を2名選択する問3の難易度が高い。Step 3では、そもそも時間が足りなくなってしまう人が多くいるだろう。

第8問は、様々な資料やグラフを読み取り、論点を整理して、レポートのアウトラインを作成することで、読解を通して英文を書く際の論理的構成力を試すことを意図した問題である。とはいえ、まずはあるテーマに関する複数の文章を読みその主張とその論拠を正しく読み取る力が求められている。こうした力をつけるためには、論説文を読むときには、まとまりとして、特に段落単位で何を言っているのか、またその根拠は何かといったことを常に意識して読むようにすることが大切である。

### 【リスニング】

#### 聴き取った情報を図表の情報と統合して判断しよう

#### 第5問 【講義・討論型ワークシート完成・選択問題】

社会的な話題に関する英文を聴き、聴き取った情報を図表から読み取った情報と組み合わせて判断する力を測定する問題

第5問は、3つの活動から成り立っている。活動1では「羊毛」に関する講義から聴き取った情報を統合し、比較・判断しながらワークシートを完成。活動2では講義の要約を書く前準備。活動3では図表を見ながら行っているディスカッションから聴き取った情報を講義内容および図表と組み合わせて判断。「聴く力」に加え、「読む力」が要求されており、音声が入り流れないため、ポーズ時間を利用して問題冊子に印刷されている情報をいかに素早く理解するか、また講義の概要をいかに的確に記憶するかがカギとなる。「ポイントとなった設問」は次の3点である。

1点目は、活動1の間28～31。まず問28・29に関しては、英文中程の they removed dirt and grass and washed the hair by hand と This whole process took a very long time を聴き取る。次に問30・31に関しては、英文後半の Large machines clean the wool. と So they sometimes use chemicals to clean it. These chemicals can damage the environment. を聴き取り、聴き取った音声を別の表現に言い換える際に躓きが見られた。

2点目は、活動2の間32。学生Aの発言から講義後半の it has been used for its many benefits for thousands of years を聴き取る。続いて学生Bの発言から講義後半の there have been many changes in the way wool is processed を聴き取り、両者の真偽判定をする際に講義内容を記憶できているかどうかで差がついた。

3点目は、活動3の間33。図表からウールの生産量が減ってきていることを押さえ、討論中のジェフの発言にある It shows there has been less wool produced in the world each year. と、講義後半の These chemicals can damage the environment. That's one reason some people now buy different types of cloth. を聴き取り、聴き取った情報と読み取った情報を統合し、ウール生産量の減少の一因を人々の環境への意識と結びつけることがポイントとなった。

【アドバイス】 音声を聴く前に、状況およびワークシート・選択肢・図表を素早く読み、講義とディスカッションの展開を予測し、カギとなるポイントを記憶しよう。

# 数 学

## 【数学Ⅰ，数学A】【数学Ⅰ】

設定を正しく把握し，効率よく解答しよう

### 【数学Ⅰ，数学A】第1問〔2〕図形と計量

#### 【数学Ⅰ】第2問 図形と計量

基地局がカバーできる範囲について考察する問題

共通テストで問われる力の一つとして「日常生活における事象を数理的に捉える能力」がある。本問の(2)では基地局がカバーできる範囲，すなわち電波が届く範囲について，三角比の知識などを用いて考察するが，(1)はそのための準備となっている。

(1)は標準的な三角比の問題であり，余弦定理，正弦定理および円に内接する四角形の性質などを用いる。(1)では「日常」はまだ登場しておらず，前半の3つの設問は教科書の例題レベルである。このところで得点できなかった人は，定理や公式を再確認する必要がある。後半では△ABCの頂点以外に2点D，Eが追加されるが，問われていることより四角形ADBCに着目することがわかり，頻出の円に内接する四角形の問題となる。

(2)では「日常生活における事象」が登場する。まずは問題文をきちんと把握することが大切であり，理解できれば，三角形と円に関する問題であること，A高校，B病院，C百貨店が(1)の三角形の頂点A，B，Cに対応しているがわかる。

(2)の(i)は中線CMの長さを求め，その値が4より大きい小さいかを調べればよいだけであるが，「中線CMの長さを求めよ」とは書いていないため，自分でそう判断できるかどうかを試されている。

(2)の(ii)で登場する「セル，地点D，E」は(1)の「外接円，点D，E」と対応しており，問題文が理解できれば単に(1)の設定で線分DEの長さを求めるだけの設問である。四角形ADEBは等脚台形であるが，自分で描いた図が雑でそのことに気づかなかった人は，丁寧に図を描くことを心がけたい。

「日常生活における事象」を扱っている問題も作業レベルでは普通の問題との違いはない。まずは標準的な問題をきちんと解けるようにすることが大切であり，その上で共通テストタイプの問題で読解力，思考力を鍛えたい。

## 【数学Ⅱ，数学B，数学C】

問題文から数学的な意味を正確に読み取ろう。

### 第3問〔1〕微分法

商品を生産するためにかかる費用と，販売したときに得られる利益を考える問題

大学入学共通テストでは，日常の出来事を数学的に考える問題や，会話文を読みながら解き進めていく問題などが出題されることがあるため，そのような出題形式に向けた対策をしておくことは必須である。しかし，数学の問題を解くことに変わりはないので，「数学的な知識」，「計算力」，「思考力」をしっかりと身につけることが最も大切である。今回の第3問〔1〕では，食料品の生産・販売に伴う費用や利益を考える問題を出題した。ただし，実質的な内容は，3次関数を決定する問題，および，3次関数の増減を調べ，最大値を計算する問題となっている。この第3問〔1〕では，まずは状況を正確に把握することが重要である。商品を $x$  kg生産するためにかかる費用を $y$ 万円とし， $y$ を $x$ で表した式 $y=f(x)$ に対して，その $f(x)$ のことを費用関数と呼ぶこと，また，費用関数に $x=0$ を代入した値 $f(0)$ のことを固定費用と呼ぶことなどを把握した上で，(1)，(2)の設問に取り組むことが必要となる。

(1)は商品Aの費用関数 $f(x)$ が満たす条件から，その $f(x)$ を具体的に決定する問題である。与えられた条件を利用して，問題文に登場した文字 $a$ と $b$ が満たす連立方程式を導き，その連立方程式を解いて $a$ と $b$ を求めればよい。

(2)は商品Bを生産・販売して得られる利益を計算し，微分法を用いて利益の最大値を求める問題である。まずは固定費用の定義に基づいて商品Bの費用関数 $f(x)$ を求めればよい。次に，「(利益)＝(売り上げ)－(費用)」であることから，利益 $g(x)$ 万円を具体的に計算し，この $g(x)$ の最大値を微分法によって求める流れとなっている。結局は関数 $g(x)$ の増減を調べ， $g(x)$ の最大値とそのときの $x$ を求めることが出来るかを問うものであり，一つ一つの計算は微分法の単元で必ず学習する基本的なものである。

教科書で学ぶ内容の習得を徹底し，基本的な問題は確実に解けるようにしておいてほしい。その上で今回の問題のような，共通テスト特有の出題形式に触れる機会を増やしていくことが重要である。皆さんがこの全統共通テスト模試を活用し，さらに個人的に演習を積み学力を上げ，共通テスト本番で高得点がとれるよう心から願っている。

# 国 語

## 【現代文】

出題の意図を正確に読み取ろう

### 第1問 問5

本文と【文章】を読んで答える問題

25年に実施された大学入学共通テストの第1問・第2問では，複数のテキストを組み合わせた問題は出題されなかったが，今後もそうした傾向が続くという保証はない。したがって，複数のテキストを組み合わせた問題に対する対策も怠りなく行う必要がある。こうした問題に正しく答えるには，次のようなことに注意する必要がある。

- 1 本文だけでなく，【文章】自体の内容も正確に読み取る。
- 2 出題者が，本文と自分の書いた【文章】とをどのように関連づけようとしているのかを正しく理解する。

たとえば今回の場合，本文末の一文である「限界を拡張していくのが筋トレ的なテクノロジーだとすれば，エクソスケルトンは，偽の限界から人を解放してくれるテクノロジーだといえます」という表現に着目した出題者が，この一文の内容を正しく理解しているかどうかを問うたのが問5である。したがって，「筋トレ的なテクノロジー」が，【文章】の第三段落で説明されている「人間の身体機能」の「拡張」と「利便性」を指し，同じ段落で「決してそれではない」(傍線部X)とされていることが，「エクソスケルトン」のあり方に該当し，それは【文章】の第二段落における「初めての感覚」や「心地よさ」や，本文最終段落の「エクソスケルトンは『感覚トレーニング』のためのツールだ」という表現に対応していることがわかれば，自ずと正解が導き出せたとはいえずである。是非，設問における出題者の意図といったものにも注意を向けてほしい。

## 【古文】

複数のテキストを合わせて読み解く

### 第4問 問4

本文を解説した文章の空欄を補充する問題

本文とは別の古文を併せて読ませたり，本文を学習する場面を設問で設定することは，共通テストの特徴である。今回の問4では，本文中のいくつかの場面を，影響を与えた有名作品と関連づけて論じる解

説文を読ませ、その中に設けられた3箇所の空欄を埋めさせている。具体的に言うと、空欄Ⅰでは『源氏物語』の影響を受けた本文の1～6行目の内容、空欄Ⅱでは『伊勢物語』の影響を受けた本文15～22行目の内容、空欄Ⅲでは『源氏物語』の影響を受けた本文22～27行目の内容を選ばせている。今回は、本文に行番号が付されており、解説文の指示に従えば、簡単に本文の該当箇所を見ることができ、その点ではまだしも取り組みやすかったはずだ。しかし、このように読まされる文字量が多くなる形式の設問に対応するには、問われている内容を迅速かつ正確に把握し、対処する情報処理能力が重要になる。

古文の学習において、重要語句を覚え、文法を正確に理解することは、おろそかにしてはならない。本文の理解に不可欠だし、今回は問1や問2ではそうした知識を直接問うている。しかし、それだけでは不十分で、共通テスト特有の設問への対応も意識して、過去問や予想問題を利用し、練習を積むことも必要である。

## 【漢文】

### 資料の記述を手がかりに詩の内容を把握する

#### 第5問 問6

##### 【資料】と【詩】についての説明問題

本問は、資料をふまえた詩の解釈が問われている。そのためには、4つの資料の記述を手がかりとして、詩に詠われている内容を推測しなければならない。まず資料Ⅰから(1)古い離宮に暮らす年老いた宮女が、かつて仕えた玄宗について昔話をしていること、資料Ⅱから(2)宮女は静かに玄宗のことを語るだけで、玄宗とその治世について称賛も非難もしていないこと、資料Ⅲから(3)玄宗の時代の繁栄を知る宮女が玄宗の死後も離宮に残って昔語りをする様子は、たいそう悲しげで哀れを誘うこと、資料Ⅳから(4)宮女が自分で見聞した玄宗のことを語るのは人々の関心を引きつけ、さびれた宮殿の悲哀がいっそう人々の心を動かすという内容を捉える。これら(1)～(4)の内容を元に各選択肢を検討し、合致するものが正解となる。

共通テストでは、一つの主題に基づく複数の文章が出題され、文章に示された情報を整理することによって、事実関係や登場人物の心情を正確に読み取る力が求められる。本問でも資料Ⅰ～Ⅳという複数の文章を手がかりにして、詩に描かれた宮女の置かれた境遇と、彼女が玄宗について語る様子を的確に捉える必要がある。重要語や句形の意味・用法をおさえて文章を読解する練習に努めることで、趣旨を正確に理解する実力を養成しよう。

# 理 科

## 【物理基礎】

つり合う2力と作用・反作用の関係にある2力の違いを確認しておこう！

### 第1問 問3

#### 物体にはたらく力を発見できるかを確認する問題

つりあいの関係にある2力と作用反作用の関係にある2力を区別できていない受験生は意外に多い。物体にはたらく力を見つける場合には、つり合いの関係にある力か作用・反作用の関係にある力かを考え判断する必要がある。「2力が同じ大ききで向きが逆向きである」という認識だけでは区別できない。力は二物体間の相互作用であるから、注目する物体にはたらく力は相手の物体で決まる力である。そのため物体にはたらく力を見つける際には、力の作用点かどの物体にあるかに注意しなければならない。作用・反作用の関係にある力は注目物体と相手の物体が及ぼし合う2力なので、力の作用点はそれぞれの物体にある。物体がつり合っているとき、その物体にはたらく力の合力は、0である。物体にはたらく力は、その物体以外の相手の物体が及ぼす力であるから、つり合っている物体にはたらく力の作用点は、その物体に力を及ぼす相手の物体の数だけあり、それらの力の作用点はすべてつり合っている物体にある。このように、教科書に記載されている物理用語や法則を正確に理解し、身に付けておくことが重要である。

また、今年はお題されなかったが、会話形式での探究課題の問題や実験のデータ・グラフに関する問題もよく共通テストで出題される。この問いにおいては、限られた時間の中で数値の表やグラフなどからデータを読みとり、その法則性、統一性を見出さねばならず、大変な思考力を必要とするので、集中力をもって対応することが重要である。

物理基礎の範囲は少ないが、様々な物理現象を扱っている。共通テスト本番に向けて、単に公式を覚えるだけの学習では対応が難しい。教科書の発展的内容や実験方法、データの処理の仕方などを丁寧に学習することが大切である。河合塾の模試では共通テストに対応した設問や新傾向の設問をしっかりと取り上げている。今回の模試のみならず今後の模試の復習をしっかりと行うことにより、地道に力をつけてほしい。

## 【物理】

### 2波源からの波の干渉は全体像の把握が大切

#### 第3問 波の干渉

##### どこに定在波が生じ、どこに進行波が生じるかを把握する問題

この問題は1個の波源と反射壁を組み合わせており、あまり見かけないタイプの問題である。しかし、反射壁による波源の虚像を考えることによって、よく見かける2波源からの波の干渉の問題に落ち着く。まず、このことに気がつくことがはじめの大切なポイントである。

さて、2波源からの波の干渉の問題で多くの受験生が着目するのは、強めあう条件式と弱めあう条件式である。これらの式は、応用することによって光の干渉にも利用できる大切な式である。しかし、それ以上に大切なのは干渉の全体像である。

どういうことかという、2波源を結ぶ線分上には定在波が生じていること。2波源が同位相の場合、2波源の中点は定在波の腹であること。強めあう場所を結んで得られる曲線は双曲線であり、その双曲線は定在波の腹の位置を通ること。そして、合成波は、定在波の腹の位置をスタートとして、強めあう線上を上下に広がるように進行すること。これらが2波源からの波の干渉の全体像である。この全体像の把握が一番大切なことである。

第3問の問3以後は今述べた干渉の全体像を元に解き進める問題である。強めあう条件式からでは全く解けない。そして、この問3以後の問題は差がつく問題でもある。

なお、大学入学共通テストのもう一つの特徴として小問集合(第1問)があげられる。小問集合は小問という言葉から簡単な問題と思われがちであるが、正答率はかなり低く、決して易問ではない。深く考えずに解くとミスをしてしまう問題が多い。常識的な思考や判断というより、深い理解ときちんとした計算でしか正解が見つからないのである。ていねいに問題と向き合う習慣を身につけよう。また、小問集合では、かなりの高確率で仕事に関する設問が出題される。仕事、あるいは仕事とエネルギーの関係をあいまいな理解のままにせず、完全な理解を常に心がけるべきである。

## 【化学基礎】

問題文を読みとり、既知の知識と結びつけて考えよう！

## 第1問 問4

イオン化エネルギーと電子親和力から結合の極性を考える問題

共通テストでは、ほとんどの受験生にとって初見となる内容について、問題文を読み取りその場で理解し既知の知識と結びつけて解答を導く力が問われることがあります。今回取り上げた問題は、このタイプの問題であり共通テストによくみられる形式の問題です。

電気陰性度の値は、貴ガスを除き周期表上で右上の元素が大きいことを知っていれば良いのですが、本問では電気陰性度の値を算出する方法を問題文から読み取り実際に求める必要があります。また、求めた電気陰性度の値を用い、結合に関わる元素の電気陰性度の差を算出し、既知の知識である結合の極性と結びつけて考える必要があります。

問題中で電気陰性度の値がイオン化エネルギーと電子親和力から求められる式が示されていますので、まずはこれに従い原子 a～d の元素の電気陰性度の値を算出します。例えば、a では、 $(787+134)/2$  を計算し 460.5 (kJ/mol) と求めます。b～d についても同様に算出すると、b は 542 (kJ/mol)、c は 651.5 (kJ/mol)、d は 727.5 (kJ/mol) と求められます。次に結合の極性について考えます。異なる元素からなる結合では、結合をつくる元素の電気陰性度の差が大きくなるほど結合の極性が大きくなるという内容は多くの教科書で扱われており、既知の知識として受験生が知っておくべき内容です。これと結びつけて考えると、比較する三つ結合 a-d、b-d、c-d について、結合を構成する元素の電気陰性度の差を取れば、結合の極性の大小を比較できます。例えば、結合 a-d では、 $727.5-460.5=267$  (kJ/mol) と算出でき、同様に、結合 b-d では 185.5 (kJ/mol)、結合 c-d では 76 (kJ/mol) となるので、結合の極性を大きい順に並べたものは、 $a-d > b-d > c-d$  と判断できます。なお、本問では比較する三つの結合のいずれにも電気陰性度が最も大きい d が関わっているため、a～c の電気陰性度が小さいほど電気陰性度の差が大きくなると判断できるので、電気陰性度の差については具体的に算出しなくても問題を解くことも可能です。

これから受験本番までに何回か行われる模擬試験などを通じて、こういった既知の知識と結びつけて解答を導くタイプの問題にも対応できる力を徐々に身につけてもらえたらと思います。

## 【化学】

実験操作を把握し、状態をイメージしよう！

## 第3問 問5 気体・蒸気圧

状態を把握し、既習の知識を活用して解答に至る問題

このような気体・蒸気圧の問題では、圧力、体積、温度、物質量のどの条件を一定にし、どの条件を変化させているかを念頭に置くことが肝要である。

a はじめの状態 1 では、60℃で容器 A (容積 6.0 L) には  $4.0 \times 10^4$  Pa の CH<sub>4</sub>、容器 B (容積 V (L) とする) には  $1.80 \times 10^5$  Pa の O<sub>2</sub> が封入されていた。次に、ピストンを押して、B 内の O<sub>2</sub> を A 内にすべて移動させたところ、A 内の全圧は、 $1.60 \times 10^5$  Pa になった(状態 2)。

状態 1 から状態 2 になったとき、CH<sub>4</sub> については、物質、温度、容積の変化はないので、圧力の変化はなく  $4.0 \times 10^4$  Pa のままである。よって、状態 2 での O<sub>2</sub> の分圧は、

$$1.60 \times 10^5 \text{ Pa} - 4.0 \times 10^4 \text{ Pa} = 1.2 \times 10^5 \text{ Pa}$$

状態 1 から状態 2 になったとき、O<sub>2</sub> については、物質、温度の変化はないので、ボイルの法則が成り立つ。

$$1.80 \times 10^5 \text{ Pa} \times V (\text{L}) = 1.20 \times 10^5 \text{ Pa} \times 6.0 \text{ L} \quad V = 4.0 \text{ L}$$

b コックを閉じ、A 内の混合気体に着火して CH<sub>4</sub> を完全燃焼させた後、60℃にした(状態 3)。反応前(状態 2)と反応後(状態 3)で体積(6.0 L)と温度(60℃)は変化していないので、 $PV=nRT$  より、物質と圧力が比例することに着目する。a でそれぞれの分圧を求めているので、化学反応にともなう量的変化を分圧で計算すると良い。生じた H<sub>2</sub>O をすべて気体とすると、

$\text{CH}_4 + 2\text{O}_2 \rightarrow \text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$
反応前    0.40    1.20    0        0
変化量   -0.40   -0.80   +0.40   +0.80
反応後    0        0.40    0.40    0.80    ( $\times 10^5$ Pa)

ここで H<sub>2</sub>O に着目する。60℃における H<sub>2</sub>O の飽和蒸気圧は  $2.0 \times 10^4$  Pa であり、気体として求めた値  $0.80 \times 10^5$  Pa を超えている。よって、H<sub>2</sub>O は気液平衡の状態であり、気体の H<sub>2</sub>O の分圧は  $0.80 \times 10^5$  Pa ではなく、 $2.0 \times 10^4$  Pa であることに注意する。

以上より、状態 3 における A 内の全圧は、(O<sub>2</sub> の分圧) + (CO<sub>2</sub> の分圧) + (H<sub>2</sub>O の分圧)  
 $= (0.40 + 0.40 + 0.20) \times 10^5 \text{ Pa} = 1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$

## 【生物基礎】

教科書を読みこんで、ゆるぎない知識を身につけよう！

## 第2問 問3・4 ホルモン

ホルモンのフィードバック調節を理解するための問題

問 3・4 は、ヒトのホルモンに関する知識問題と考察問題であるが、すべて正答率が 40% 程度であった。

問 3 は、チロキシンの働きを答える知識問題であり、④が正解である。①カルシウムイオン濃度を上昇させるのはパラトルモン、②腎臓でのナトリウムイオンの再吸収を促進するのは鉱質コルチコイド、③腎臓での水の再吸収を促進するのはバソプレシンである。この問題では、上位層と下位層の正答率の差が 40 ポイントを超えた。ホルモンの名称と働き、その内分泌腺はまとめて覚えておくとよい。

問 4 は、実験 1、実験 2 の血中濃度の変化のグラフから、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンとパラトルモンのそれぞれに該当するホルモンを選ぶ考察問題である。

チロキシンは甲状腺から、パラトルモンは副甲状腺から分泌されることが与えられているので、実験 1 の甲状腺と副甲状腺の除去から、ホルモン A とホルモン B のうち一方がチロキシン、他方がパラトルモンとわかる。実験 2 の脳下垂体の除去から、甲状腺刺激ホルモンの血中濃度の低下により血中濃度が低下したホルモン B がチロキシンである。また、その影響を受けないホルモン A がパラトルモンと分かる **11**。この問題では、上位層と下位層の正答率の差が 60 ポイントを超えた。甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンについては、フィードバックの知識が必要である。チロキシンの血中濃度が低下すると、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンや甲状腺刺激ホルモンの血中濃度は上昇するが、実験 2 では脳下垂体が除去されているので、甲状腺刺激ホルモンの濃度は低いままであり、ホルモン C が甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンと分かる **10**。この問題でも上位層と下位層の正答率の差が 40 ポイントを超えた。

共通テストでは、「思考力」が重要であることが強調されている。思考力を問う問題に対処できる力は、正確な知識に基づいて発揮されるものである。教科書をしっかりと読みこんで、ゆるぎない知識を身につけてもらいたい。

## 【生物】

考察問題に慣れよう！

### 第3問 問4・5 酵素

酵素反応を利用してグルコース濃度を求める問題

血液中のグルコース濃度の測定方法についての文章を読み、問4では測定時に利用する物質の添加量や性質について適当なものを選び、問5では測定結果に基づいて、グルコース濃度を推測する問題となっています。問4では測定方法の読み取りだけでなく、酵素の性質や酵素反応に関する理解が重要となります。ここでは、選択肢①の判断に「酵素は繰り返して働くことができる」こと、選択肢②の判断に「生成物量は基質濃度によって変化する」ことを理解している必要があります。特に、選択肢②の判断では、酵素Pの基質は、過酸化水素、物質B、物質Cの三つがあり、物質BやCの量が少ないと、グルコースから生じた過酸化水素の量に関係なく生成物(赤色色素)の量が決まってしまうことを考えなければなりません。また、この実験では、波長505 nmの吸光度からグルコース濃度を推定するので、赤色色素以外にこの波長の光を吸収する物質が存在する可能性があることを考える必要があります。今回の問題では、問4の選択肢③や④がこれらの内容を考えるきっかけになりますが、目的の物質について間接的に濃度などを推定する場合には、目的の物質以外の影響についても検討する必要があります。それを検討するために、実験1でグルコースではなく蒸留水を加える実験を行っています。共通テストでは、「どのような実験を行う必要があるか」を問われることもあるので、このような実験の全体の流れを理解しておくことも有効です。

共通テストでは、知識を問う問題と問題文や実験データなどを読み取り考察する問題があり、考察する問題が占める割合が高くなっています。また、考察する問題の中でも、知識にもとづいて考察する問題が多く出題されています。今回の問4では、酵素の性質や酵素反応について把握している上で、これを選択肢の内容に応用する必要があります。また、この測定方法について、問題文に書かれた内容を正確に読み取る力も必要です。

この問題でつまづいてしまった人は、知識不足なのか、知識が応用できなかったのか、または、実験内容を正確に読み取れなかったのかを再確認し、原因を明確にして今後の学習に生かしましょう。

## 【地学基礎】

地球温暖化とフィードバックを結びつけて理解しよう！

### 第4問 問2 地球温暖化

地球温暖化に関する考察問題

問2は、地球の気温が上昇することによって、どのような仕組みがはたらいて地球環境が変化していくかを、フィードバックの観点から考えていく問題である。フィードバックに関しては、新課程となって新たに取り入れられたテーマであり、多くの教科書で地球温暖化との関係を例に挙げて掲載されている。また、フィードバックの問題を解くときは、さまざまな地学現象を結びつけて考える総合力が必要となる。これらのことから今後、共通テストでは、地球環境の変化と結びつけた問題が出題される可能性が高いことから、ここで取り上げた。

地球温暖化は、主に化石燃料の使用や森林伐採などの人間活動の影響による温室効果ガス(二酸化炭素など)の増加によって、地表からの放射された赤外線が大気中の温室効果ガスに吸収されて暖まり、暖まった大気から赤外線が再び地表に向かって放射されることによって起こる。

地球温暖化についてのフィードバックは、温暖化が気候などを変化させ、その変化が地球温暖化に影響を及ぼすことを考える必要がある。正のフィードバックは温暖化を促進、負のフィードバックは温暖化を抑制する効果であることを、必ず覚えておこう。

A・Iに関しては、次のような負のフィードバックを表している。

地球温暖化→気温の上昇→植物の光合成が活発化→二酸化炭素の吸収→二酸化炭素(温室効果ガス)濃度の低下→気温の低下

Uに関しては、次のような正のフィードバックを表している。

地球温暖化→気温の上昇→氷雪の融解(氷雪は太陽放射を反射しやすい)→地表が吸収する太陽放射の増加→気温の上昇

今後の学習に向けてのアドバイスとして、フィードバックの意味を理解し、具体例を覚えておくことよいため、その他の例を挙げておく。

・正のフィードバック：地球温暖化→気温の上昇→永久凍土の融解→凍土中のメタン(温室効果ガス)の放出→温室効果ガスの濃度増加→気温の上昇

・負のフィードバック：地球温暖化→気温の上昇→水の蒸発の活発化→雲量の増加→雲が太陽放射を反射→地表に届く太陽放射の減少→気温の低下

## 【地学】

地質図からさまざまな地学現象を読み取る力を身につけよう

### 第3問 問3 地質断面図

地質断面図とリード文の情報から、地層構造や地史を読み取る

○不整合を読み取る

不整合を示す現象としては、境界面に侵食したことを示す凹凸などが見られること。上位層の最下部に下位の地層・岩体を起源とする礫を含む礫岩層(基底礫岩)が見られること。下位と上位の地層の形成時期の間に長い中断があること。下位と上位の地層の走向・傾斜が異なること。などが挙げられる。このうち、一つの条件が満たされれば不整合と判断できる。本問では、すべての条件を満たしているので不整合と判断できる。したがって、①の選択肢の下線部の記述は正しい。

○接触変成の有無

接触変成岩は、既存の岩石にマグマが貫入したとき、マグマとの接触部が熱変成を受けて形成される。A層の最下部の不整合面がG岩体を覆っていることから、G岩体が貫入したときにはまだA層が堆積していないので、接触変成を受ける可能性はない。したがって、②の選択肢の下線部には誤りが含まれている。

接触変成作用を題材とするときには、源岩から接触変成岩を問う場合も多いので、その関係も整理して押さえておきたい。

○形成の順序を読み取る。

地質図から層序を読み取る問題は最もよく出題される。まず、問題文に地層の逆転がないとあることから、地層累重の法則が成り立つことがわかる。このとき注意が必要なのは、地層累重の法則はあくまで地層(堆積岩・堆積層)に成り立つ法則で、貫入岩体(火成岩)や変成岩には適用できないことである。本問では、B層→A層の順が決まる。次に、切る・切られるの関係を読み取る。不整合面、断層、貫入岩体において、切っている方が切られている方よりも新しい。これより、③では、断層FがA層の最下部の不整合面を切って、A層をずらしていることから断層FがA層の形成よりも後であるという下線部の記述は正しい。また、B層の褶曲で変化している走向・傾斜をG岩体が切って貫入していることから、④のB層が褶曲したのはG岩体の貫入よりも前であるという下線部の記述も正しい。

共通テストでは、ルートマップ、柱状図、断面図、平面図など、さまざまな形でほぼ毎年地質図の問題が出題されている。図から基本的な事項を読み取る力をつけて今後の地質図の問題に応用していきたい。

## 地理歴史、公民

### 【地理総合】

目的に応じて必要なデータを選択する能力を身に付けよう

#### 第1問 問4

コミュニティバスの停留所を考察する際のレイヤーを選ぶ

本問は、「自動車の運転が困難な住民が多い地域を結ぶコミュニティバスの停留所の位置を考える」際に、ベースマップに重ねるレイヤーを選ぶ設問である。上位層では正答率は高かったが、下位層では非常に低く、大きな差が付いた。

自動車の運転が困難な住民の多くは高齢者であり、ケの「小地域ごとの老年人口率」を多くの受験生は選択できていた。しかし、コミュニティバスは、利用者の移動手段を提供するものであり、移動が困難な交通弱者は、食料品などの最寄り品の入手に支障をきたすことが多い。よって、もう一つの選択肢は、クの「スーパーマーケットの位置」を選択してほしかった。地理総合の問題では、GISの活用として、身近な地域の問題を解決することを事例とする出題が多く、目的に応じて必要なデータを選択する能力が求められる。教科書の事例などを読んで、対応できるようにしておこう。

自然環境は分布をしっかりと整理しておこう

#### 第2問 問1

地形断面図の判定

本問は、世界の4か所の地形断面図を判定する設問である。地理総合では、細かな成因まで踏み込んで問われることはないが、世界の地形の起伏は、教科書で取り上げられており、把握しておく必要がある。全体で、正答の④を選択した受験生は、誤答の②と③を選択した受験生よりも少なかった。②はアフリカ東部のアフリカ大地溝帯の台地が東部に含まれており(C)、③は変動帯に位置するチベット高原の東部が含まれているため(B)、いずれも東部の標高は高くなっている。問われているAは、安定地域に位置し、全体の標高も低く、山脈でも、なだらかなウラル山脈が含まれているので、④が該当する。自然環境は、分布を理解しておくことが重要であるため、教科書や地図帳を活用して、把握しておいてほしい。

### 【歴史総合】

地図・グラフ・史料などの読解力をつけよう！

#### 第1問 問3・問4

諸資料の読解力を問う問題(問3・問4)

歴史総合では、地図・図版・グラフ・統計表・史料など諸資料を駆使した出題がなされる。そこで取り上げたのが問3・問4である。問3は、「風刺画(図)と論説(資料1)」という二つの資料を利用した設問で、正解するには読解力と関連する知識の両方を必要とする。問4は三つの史料を利用した設問で、史料が読解できれば正解できる。その意味では難しくないのだが、三つの史料を考察1・2の内容に沿って読む必要があるので時間はそれなりにかかる設問である。共通テストでは本問のように解くのに時間を要する設問が多々あり、時間の使い方にも注意しなければならない。また、早く解けるようになるためには「慣れる」ことが肝要であり、そのためにはこの手の問題の演習量を増やすことが近道である。実際にどの位の時間がかかるのかを把握したければ、共通テストの過去問を、1問ずつかかった時間を記録しながら解いてみるとよい。

グラフの読み取りに慣れよう！

#### 第2問 問8

グラフを読み取って、その変化の要因を考える問題

この問題は、訪日外国人数の推移を示すグラフを挙げ、2013年以前で2度大きく減少した要因として、それぞれ世界的な出来事と日本国内の出来事のいずれかの要因を考える問題である。まず、グラフからは減少した時期が2009年と2011年であることを読み取る。そのうえでそれぞれの時期に起こった出来事として、2009年はその前年にリーマン＝ショックと呼ばれる世界的な金融危機が起こっていたことを想起する。また2011年には東日本大震災にともなう東京電力福島第一原子力発電所の事故が起こっていたので、それぞれを結びつけて正解はIとYの組合せになる。新型コロナウイルスの流行は2020年、阪神・淡路大震災は1990年代のことなので、時期が合わない。

このように、歴史総合の問題ではグラフを使用した出題が予想される。見慣れないグラフは戸惑うかもしれないが、求められているのは複雑なことではなく、減少したか増加したか、それはいつのことかなどを読み取ることであり、読み取った時期が歴史上どのような時期であったのかという知識を身につけていることが重要である。

### 【公共】

示された基準や条件に適合する事例を選べるようになるよう

#### 第1問 問2

アイデンティティの感覚をもつ心理状態の事例を判断する問題

この設問は、アイデンティティの感覚をもつ心理状態に至っているかどうかを、ノートに示された基準・条件に照らし判断するというものである。ノートに示された基準・条件には、「斉一性の感覚」「連続性の感覚」「自分が感じている斉一性と連続性の両方を、他者からも認めてもらえているという感覚」の三つがある。

Aの学生Pは、自らの振る舞い方について、将来にわたって貫けるかどうか確信をもてずにいる。このことから、学生Pは「連続性の感覚」をもっていないと判断できる。したがって、アイデンティティの感覚をもつ心理状態に至っているとは言えない。

Iの学生Qは、一度決めたことを投げ出したりせずにやり遂げることや信頼を裏切らないことを自己の信条とし、この信条を基本とする態度を、保ち続けていると思っている。この点から学生Qは「斉一性の感覚」をもっていると判断できる。また、この信条を過去から現在に至るまで維持してきたし将来も維持していきたいと思っている。この点から学生Qは「連続性の感覚」ももっていると判断できる。そして、周囲の人間も自己のこのような信条を肯定的に評価してくれていると確信していることから、「自分が感じている斉一性と連続性の両方を、他者からも認めてもらえているという感覚」ももっていると判断できる。したがって、アイデンティティの感覚をもつ心理状態に至っていると言える。

Uの学生Rは、頑張り屋という自身のあり方について、周囲の人たちから認められていないと考えているのだから、「自分が感じている斉一性と連続性の両方を、他者からも認めてもらえているという感覚」はもっていないと判断できる。したがって、「アイデンティティの感覚をもつ」心理状態に至っているとは言えない。

2025年度の共通テスト本試験でも、示された基準や条件に適合するかどうかを判断する問題が、第2問・問1で出題されている(社会関係資本と社会的共通資本に関する設問)。過去問や模擬試験を用いて類題の研究を積み重ね、的確に事例を選び取る判断力を磨いていこう。

## 【地理総合、地理探究】

資源と産業の分野は、上位国や特徴的な国の統計を確認しておこう。

### 第3問 問2

#### 4か国の発電電力量の内訳

本問は、4か国の発電電力量の内訳を示したグラフのうち、デンマークと水力発電を判定する設問である。誤答も含めて受験生の解答は分散しており、正答率は、きわめて低かった。平坦な国土のデンマークは、再生可能エネルギーのなかでも偏西風を利用した風力発電の割合が50%を超える国であり、その他の割合が高いDである。オーストラリアは、自国産の化石燃料を用いた火力発電が中心でCであり、そのオーストラリアでは原子力発電は行われていないため、力が水力発電、キが原子力発電となる。残りは、Eが水力発電の割合が高いことからカナダ、Fが原子力発電の割合が高いことからフランスである。資源と産業の分野では、各種統計を用いた出題が頻出である。今のうちに、主要な農産物やエネルギー・鉱産資源、工業製品などのデータを確認しておこう。

## 世界の人口分布、人口大国をしっかりと整理しておこう

### 第4問 問1

#### 世界の国々の人口密度

本問は、世界の国々の人口密度を示した図を用いて、人口に関するさまざまな知識について正誤の組合せを8択で選ぶ設問である。アとイの正誤は、比較的判定できていたが、ウの判定で迷った受験生が多かった。各選択肢で、当てはまらない例を指摘できればよく、アでは、砂漠気候が国土の大半を占めているが、外来河川のナイル川が流れるエジプトは、人口密度が50人/km<sup>2</sup>を超えている。イでは、人口密度が200人/km<sup>2</sup>を超えている国でも、日本や韓国は森林率が高い。ウでは、人口1億人以上の国でも、ロシアやアメリカ合衆国は、人口密度が50人/km<sup>2</sup>を下回っている。当てはまらない例として指摘できる国は、しばしば本試でも出題される頻出の国であり、こうした国の特徴は、今のうちに整理しておいてほしい。まずは、人口1億人以上の国をすべて、位置も含めて確認しておこう。

【地理総合】の学習対策も確認しておこう。

## 【歴史総合、日本史探究】

資料問題に強くなろう

### 第3問 問4

#### 思考力を用いて資料を読解する問題

図3から得られる情報を基に、あといの正誤を判断する設問である。あについては、図3の「東海西部」・「東海東部」・「中部高地」・「関東」に着目できれば、穀物農耕の波及時期がほぼ同じ地域であっても、灌漑をとまなう水稲耕作が定着する時期が異なることは明白であり、誤文である。いについては、そもそも灌漑をとまなう水稲耕作が定着しなかったのは図3の「東北北部」だけであり、その「弥生Ⅰ」の時期を見れば、水田跡が見られるので正文である。本問は、知識は全く必要ではなく、文あ・いの内容を図3と照らし合わせてゆけば正解できる。ただ、それなりに時間がかかる設問といえ、共通テストになってからこの手の設問が多くなった。問題演習の際には、早い段階から時間の掛かり具合も気にかけて取り組むとよいと思う。

## 年代配列問題に強くなろう

### 第4問 問6

#### 歴史用語を類推する力をつけよう！

年代配列問題は元々苦手な受験生が多い設問形式であるが、共通テストになってからは歴史用語をあまり使わなくなった。年代配列問題は各文のおおよその年代を特定する必要があるため、歴史用語を使ってくれた方が判断しやすい。つまり、抽象的な内容の方が難度は高いということである。第4問・問6は、Ⅰは「上皇」=後鳥羽上皇、「兵乱」=承久の乱の歴史用語が隠されているが、「執権北条義時」があるので、隠された歴史用語の判断はできてほしい。13世紀前半である。Ⅱは「北条氏と三浦氏との武力衝突」=人名と戦乱名が隠されているが、これも隠された歴史用語の判断はできてほしい。Ⅲも「侍所の初代別に就任していた武士が鎌倉で挙兵した戦い」=人名と戦乱名が隠されているが、これも判断できないといけないレベルである。Ⅰと同様、2代執権北条義時の時代であるが、この「戦い」で義時は執権の地位を確立するので、Ⅰの承久の乱よりは前と判断してほしい。このように年代配列問題は、時期を特定できる情報を抽出できるかどうかのポイントになる。常にその点に留意して、問題演習に取り組もう。

【歴史総合】の学習対策も確認しておこう。

## 【歴史総合、世界史探究】

様々な情報を総合して考える力を身につけよう

### 第4問 問3

#### 教科書の知識、図や文章からの情報を総合して解答する問題

この問題は、古代のアテネの街並みの図が示され、図から読み取ることのできる情報と、アテネに関する教科書の知識などを考え合わせて、文章の正誤を判定する問題である。①ではまず、問題の会話文中の先生の発言に「20世紀半ばにアテネ市内のアゴラから出土したそうです」とあることから、資料が刻まれた石碑が出土した場所を読み取らなければならない。そして図からは、出土した場所であるアゴラがアレイオス=パゴスの丘の南方ではなく北方に位置することを読み取って、文章が誤りであると判断する。②では、ソフォクレスがアイスキュロス・エウリピデスと並ぶアテネの悲劇詩人であり、アテネでは悲劇・喜劇の上演が盛んに行われたという教科書の知識が必要である。そのうえで図にはディオニュソス劇場が示されているので、文章は正しいと判断できる。③は、アテナ女神をまつるパルテノン神殿が、アレイオス=パゴスの丘ではなく、図にも示されているアクロポリスの上に築かれているという知識があれば、文章は誤りと判断できる。④では、文章中にある「アテネで僧主となった人物」としてペイシストラトスを想起しなければならない。そのうえで図を見ると、ペイシストラトスの泉はディピュロン門と聖門の間には位置していないことが分かるので、文章は誤りであると判断する。

以上のように、教科書で学習する基本的な知識は当然身につけていなければならない。しかし、それだけでは世界史探究の問題には解答できない。問題から様々な情報を読み取り、それらと教科書の知識を総合して考える力が求められる。情報は、この問題の選択肢①のように、問題文そのものに示されている場合もある。挙げられている資料がいつごろのものなのか、誰が記したのか、どのような性格のものかなど、資料を説明している部分は読み落とさないようにしたい。また資料としては、文章だけでなく、この問題のような図や、写真、あるいは表やグラフが挙げられている場合もある。その多くは初めて見るもので戸惑うかもしれないが、読み取るべき情報は明確に示されているので、しっかりと見極めたい。

【歴史総合】の学習対策も確認しておこう。

## 【公共、倫理】

思想に関する知識と読解力をともに重視しよう

## 第6問 問2

レヴィ＝ストロースの思想に関する知識と読解力を試す問題

この問題では、人類学者レヴィ＝ストロースが神話と歴史について論じている資料を読んだうえで、選択肢の中からレヴィ＝ストロースの思想と資料の内容についての適当な説明を選ばなければならない。選択肢の記述は、それぞれ、前半がレヴィ＝ストロースの思想についての説明、後半が資料の内容についての説明となっている。

まず、前半は、③と④が適当である。レヴィ＝ストロースは個々の事象の深部にある文化的な構造を研究し、その結果、無文字社会の「野生の思考」は複雑な構造に基づいており、文明社会の科学的思考に比べて価値の劣るものではないことを明らかにした。①の前半は、ハーバーマスの思想についての説明である。ハーバーマスは、政治や経済のシステムが「生活世界」を侵食しつつあることに危機を見だし、この事態を「生活世界の植民地化」と表現した。また、②の前半は、ハイデガーの思想についての説明である。ハイデガーは、人間は気がつくとき世界の中に投げ出されて世界の中で事物や他者を気にかけているとし、このようなありようを「世界内存在」と呼んだ。

次に、資料の読み取りである後半は、②と④が適当である。いずれも、資料冒頭の記述に合致している。これに対して、①の後半の記述は、資料末尾の記述に合致しておらず、③の後半の記述は、資料の中ほどの記述に合致していない。以上より、前半・後半ともに適当なのは④のみであり、④が正解となる。

今後の学習においては、様々な思想について正確な知識を身につけることがもちろん大切であるが、資料の読解力にも磨きをかけてほしい。模試や過去問の練習を通じて、思想に関わる資料を迅速かつ的確に読み取る力を効果的に高めることができるだろう。

【公共】の学習対策も確認しておこう。

## 【公共、政治・経済】

論理的に考える力を身に付けよう

## 第4問 問4

提示された基準に該当するか否かを判断する問題

本問は論理的思考力を問うタイプの問題である。第4問の問4も同様の問題であり、共通テストではたびたび出題されている。このタイプの問題を解くためには、模擬試験や過去問の演習を通じて論理的思考力を身につけておく必要がある。

まず、提示された資料の基準を確認する。資料による「検閲」の定義は、(1)検閲の主体が「行政権」、(2)検閲の対象が「思想内容等の表現物」、(3)検閲の時期が「発表前」、(4)検閲の効果が「発表を禁止すること」、という4点にまとめることができる。

次に、各選択肢が上述の各ポイントに当てはまるか否かを検討する。正解の③は、総務省〔(1)に当てはまる〕が、新聞記事の内容〔(2)に当てはまる〕を事前〔(3)に当てはまる〕に審査し発行を差し止めている〔(4)に当てはまる〕ので、(1)～(4)のすべてのポイントに当てはまることになり、「検閲」に該当する。

その他の選択肢は、(1)～(4)のいずれかのポイントに当てはまらないので「検閲」に該当しない。①裁判所は、「行政権」ではない。②交通秩序を維持するためにデモ行進について警察への事前の届出制を設けることは、デモ行進という「行動」に対する規制であり、「思想内容等の表現物」に対する規制ではない。④わいせつ図画の発行について刑罰を科すことは、「発表後」の規制であり「発表前」の規制ではない。

このタイプの問題は、中途半端な知識に引っ張られて判断を誤らないようにすることが肝要である。

【公共】の学習対策も確認しておこう。

## 情報

## 【情報 I】

シミュレーションに関わる設定を読み解く力を養成しよう

## 第2問B 確率的シミュレーション

モデルの構築やシミュレーションの結果を考察する力を問う問題

本問は、「複数人で一列に並んで歩く」という身近な状況をシミュレーションが可能な形にモデル化して実行し、結果を考察する力を問うている。歩幅をランダムなものとした確率的シミュレーションの例であり、確定的シミュレーションと比べ、やや難しく感じるかもしれないが、問題文や設問文に基づき、シミュレーションの目的、モデル化の際のルール、実行結果などを正しく読み解くことが重要である。

問1 aは歩幅がランダムに変化する中で、指定された歩数を進んだ時の位置を計算する問題である。決して難しい問題ではないが、具体的な値を用いて考えることで、状況の理解を深め、モデルの構築の一助として活用すべき問題といえる。問1 bは「60以上80以下の整数値を一様にランダムで出力する」という内容に基づき、グラフの軸に注意して判断することが求められる。

問2はモデル化に関する問題である。このような問題では、与えられたルールを正しく理解することを特に意識しよう。ルールを簡単にまとめると「歩幅はある範囲内でランダム、前の人がいた位置を追い越すことができない」というものだが、これを問2 aで具体的な値により確認するとともに、問2 bで表計算ソフトによるシミュレーションを行うための表現に言い換えることが求められている。問2 bを難しく感じた場合は、 $t$ や $n$ に具体的な値を代入し、ルールが守られているかを確認してみるのもよい。

問3はシミュレーションの結果について考察する問題である。図3はある試行の結果を示したもので、図4は1000回の試行の結果をまとめたものであることを理解したうえで、各選択肢の内容を検討しよう。

シミュレーションの問題は本試験でも出題されており、試行の結果を考察する問題も多いが、設問文や問題文に基づき、何を目的にどんなルールのモデルを組み立ててシミュレーションしているのかを正しく理解することが、解答の前提となる。具体的な値を用いて計算しながら、ルールについての理解を深め、それに基づきモデルを構築する、という流れを確認しながら、全体の復習に取り組もう。

「成績推移」過回成績表示 申請について

このたびは、第1回全統共通テスト模試を受験していただきありがとうございました。  
さて、個人成績表には、前年度に全統共通テスト高2模試を受験されている場合、学力伸長度・学習成果を確認いただくために「成績推移」(過回成績)を表示しています。

しかし、各模試受験時に提出いただく受験届の基本事項(カナ氏名、生年月日、高校コード、学年、クラス、出席番号、電話番号)に過去の回と一致しない項目があった場合(同一の方と判断できず)個人成績表の「[5]成績推移」欄に過回成績が表示されないことがあります。表示されていない過回成績の表示を希望される場合は、以下の手順に従って申請していただければ、過回成績を表示した個人成績表を改めてお届けします。

学校一括で申込・受験された全統共通テスト模試個人成績表には、個人で申込・受験された回の成績は表示されません。このケースについては対応できませんのでご了承ください。また、右の申請用紙は「過回成績」表示専用です。個人成績表の他の項目や得点等について修正することはできませんのでご了承ください。

①送付先

右の申請用紙の太枠内をすべて記入し、27ページに記載されている河合塾の営業部あてに郵送にてお送りください。なお、河合塾生(塾生として申し込んだ大学受験科・高校グリーンコース生)の方は、所属校舎へご提出ください。

②申請用紙の記入方法

成績表示されていない前年度の全統共通テスト高2模試の「解答用紙番号」「受験番号」を記入してください。

③提出していただくもの

1. 右の申請用紙
  2. 今回の模試の個人成績表(コピーの場合は第1面と第4面を提出してください)  
\*ただし、Web返却対象者は必要ありません。
  3. 成績推移欄に表示されていない前年度の全統共通テスト高2模試個人成績表(第1面のコピーで可)
- ※ 提出いただいた個人成績表は、一緒に返却いたします。

上記を同封し、封筒の表に朱書きにて「第1回全統共通テスト模試 過回成績表示申請」と明記してお送りください。

④送付締切日

6月13日(金)河合塾到着分まで受け付けいたします。

⑤返送日

個人成績表は、6月26日(木)頃発送の予定です。

【個人情報の取り扱いについて】

1. 申請用紙に記入された個人情報は、厳重に取り扱い適正な管理を実施します。
  2. 利用目的…個人成績表に過回成績の表示および成績返却  
…過回模試の受験届に記入された情報の確認と修正
- 上記の2点の利用目的以外には使用しません。

申請用紙の記入・提出方法についてご不明な点がございましたら、下記のフリーダイヤルへお問い合わせください。

※河合塾生(塾生として申し込んだ大学受験科・高校グリーンコース生)の方は、所属校舎にお問い合わせください。

全統模試サポートセンター(12:00~19:30 日曜、祝日および12/31~1/3は受付を行いません。)

フリーダイヤル: 0120-977-558

\*全統模試サポートセンターでは、正確な応対と対応品質向上のため、通話内容を録音させていただきます。

2025年度 第1回全統共通テスト模試 「成績推移」過回成績表示 申請用紙

●太枠内をすべてご記入ください。

		提出日		月	日
フリガナ 氏名				S ・ H	年 月 日
今回の 解答用紙番号	—			今回の受験番号	性別 (O印を) 男・女
在・卒高校名	学年	クラス名	クラス番号		
住所 (連絡先)	〒 ※マンション名、部屋番号まで記入してください。 方				
電話番号	( ) —	携帯電話番号	( ) —		
成績が表示されていない模試の 解答用紙番号を 記入してください。 ※受験番号は発 番されている場 合に記入してく ださい。	模試名	解答用紙番号	受験番号		
	全統共通テスト高2模試	—			

※記入漏れがある場合、過回成績が表示できないことがありますのでご注意ください。

(過回成績表示についてのご確認)

個人情報保護により、高等学校、塾・予備校等の学校経由で申込み・受験された全統共通テスト模試個人成績表には個人で申込み・受験した過回の成績は表示されませんのでご了承ください。成績表示を希望される場合は、必ず過回の模試申込みの形態をご確認ください。

【河合塾記入欄】

受付日	受付者	返却日	返却者



## お問い合わせ先一覧

### ■模試について

- ①個人でお申し込みの方 河合塾全統模試サポートセンター 0120-**977**-558  
②学校を通じてお申し込みの方 河合塾全統模試サポートセンター 0120-**717**-558  
③河合塾生の方 [高校グリーンコース生専用フリーダイヤル] 0120-**751-577**

※高校グリーンコース生以外の塾生の方は所属校舎へお問い合わせください。

\* 河合塾全統模試サポートセンター／高校グリーンコース生専用フリーダイヤル (12:00~19:30 日曜、祝日および12/31~1/3は受付を行いません。)

### ■「成績推移」過回成績表示申請用紙の記入・提出方法について

- ①河合塾生の方 所属校舎  
②河合塾生以外の方 河合塾全統模試サポートセンター 0120-**977**-558  
[www.kawai-juku.ac.jp/zento/grades/request/](http://www.kawai-juku.ac.jp/zento/grades/request/)



### ■「成績推移」過回成績表示申請用紙の送付先 受付時間 9:00~17:00 (土日祝休み)

北海道営業 〒060-0809 札幌市北区北9条西3-3 (河合塾札幌校内) 【担当地区：北海道】	TEL(011) 708-8584
東北営業 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-27 (河合塾仙台校内) 【担当地区：青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島】	TEL(022) 215-7581
関東営業 〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-67-2 (河合塾大宮校内) 【担当地区：茨城・栃木・群馬・埼玉・新潟・富山・長野】	TEL(048) 647-9581
首都圏営業 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-2 四谷グローバルスタディスクエア6階 【担当地区：千葉・東京・神奈川・山梨】	TEL(03) 6811-5532
中部営業 〒464-8610 名古屋市千種区今池2-1-10 (河合塾千種校内) 【担当地区：岐阜・静岡・愛知・三重】	TEL(052) 735-1511
近畿営業 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-13-1 【担当地区：石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・岡山・徳島・香川・高知】	TEL(06) 6372-5731
中四国営業 〒732-0057 広島市東区二葉の里1-1-50 (河合塾二葉の里オフィス2階) 【担当地区：島根・広島・山口・愛媛】	TEL(082) 264-4581
九州営業 〒810-8619 福岡市中央区渡辺通4-2-11 (河合塾福岡校内) 【担当地区：福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄】	TEL(092) 714-5711